

漂白  
凶殺  
佳人  
殺戮



CRIMSON COMICS

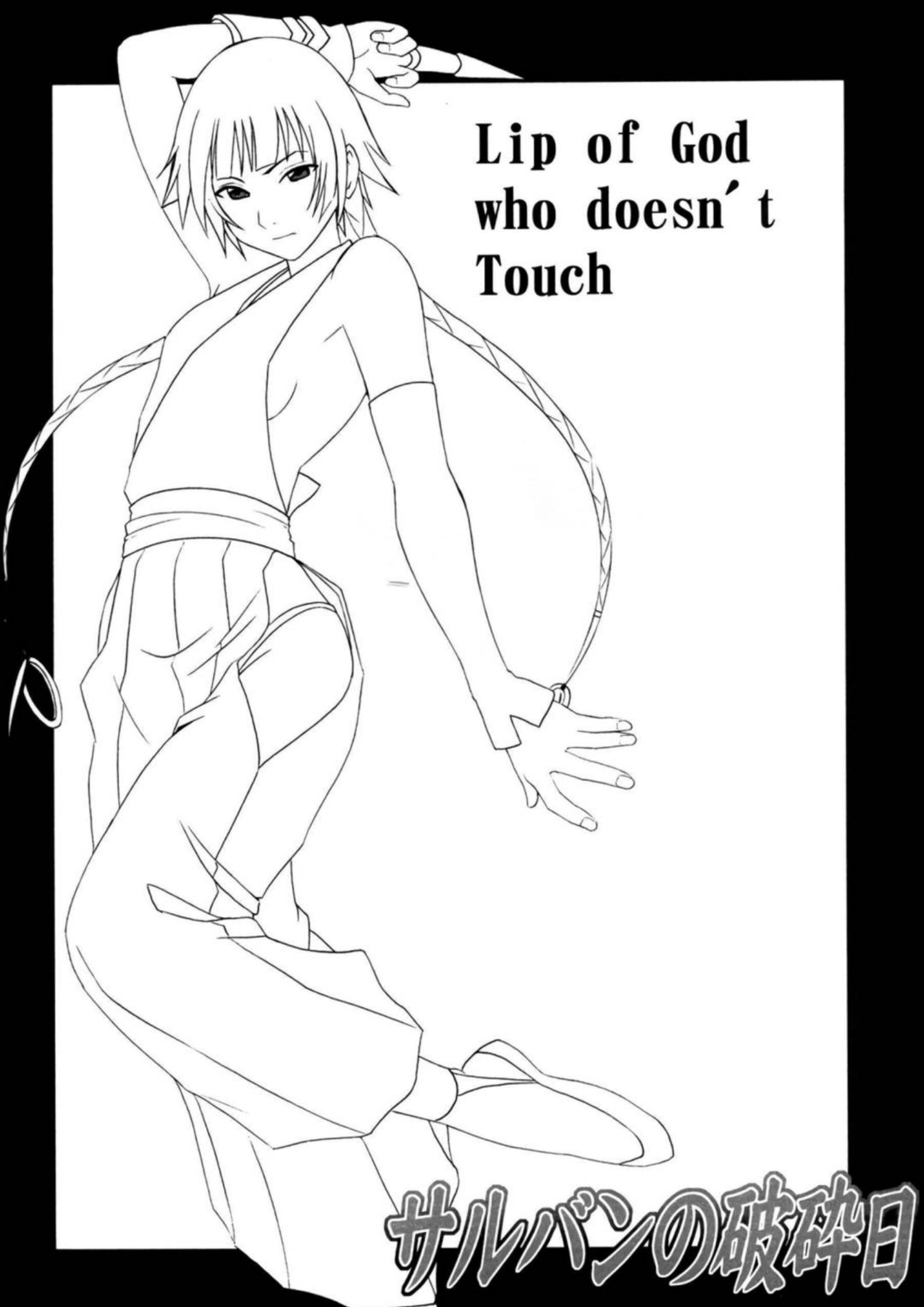
# カルバンの破碎日



LIP OF GOD  
WHO DOESN'T  
TOUCH

CRIMSON COMICS





**Lip of God  
who doesn't  
Touch**

**サルバンの破碎日**

約束どおり  
一人で来たぞ

夜一様を返して  
もらおうか



まあ落ち着け  
夜一は  
このトビラの  
奥にいる



見てえだろ？



見せてやるよ

愛しの  
夜一サマを



夜一様アツ！

アンタには  
二者択一の権利が  
ある

…！

おつと  
慌てるなよ



おお…  
自分を選択したか

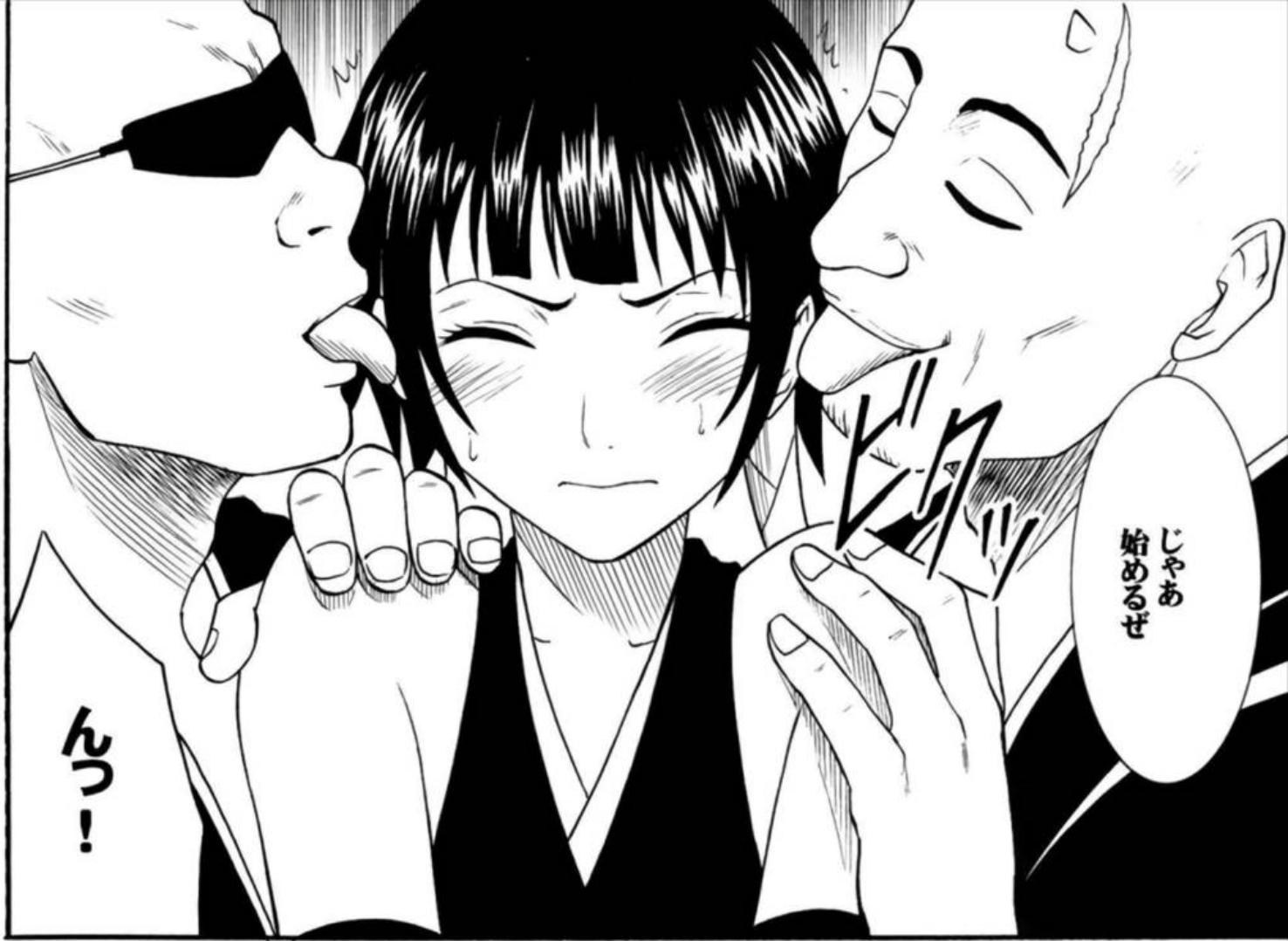
涙ぐましい  
ねえ

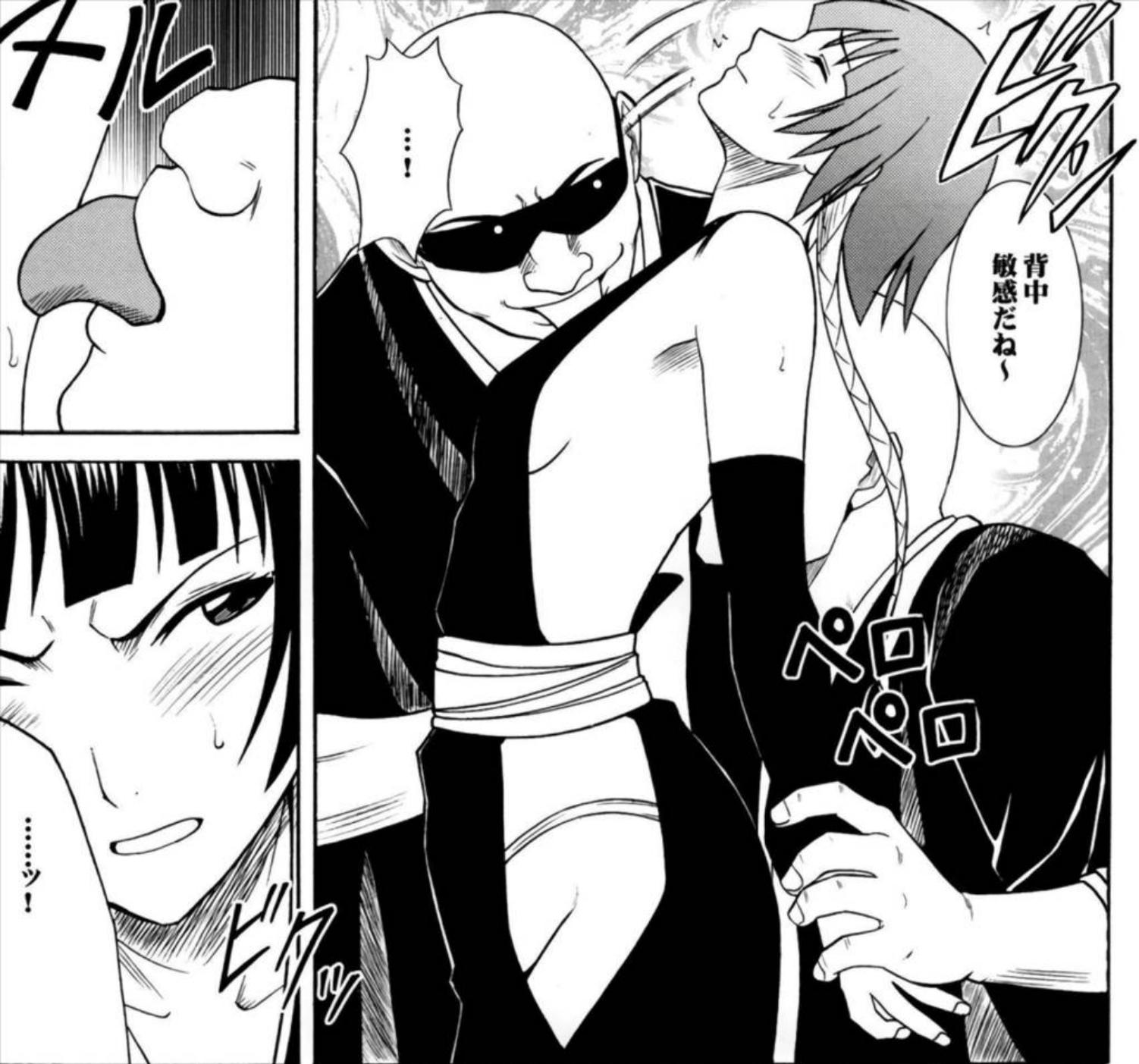
じやあますは  
靈圧をおさえる  
銃をつけさせて  
もらおうか

私の体など…

夜二様の美しい体を  
汚させないためなら

あの女のかわりに  
お前で  
遊ばせてもらうぜ









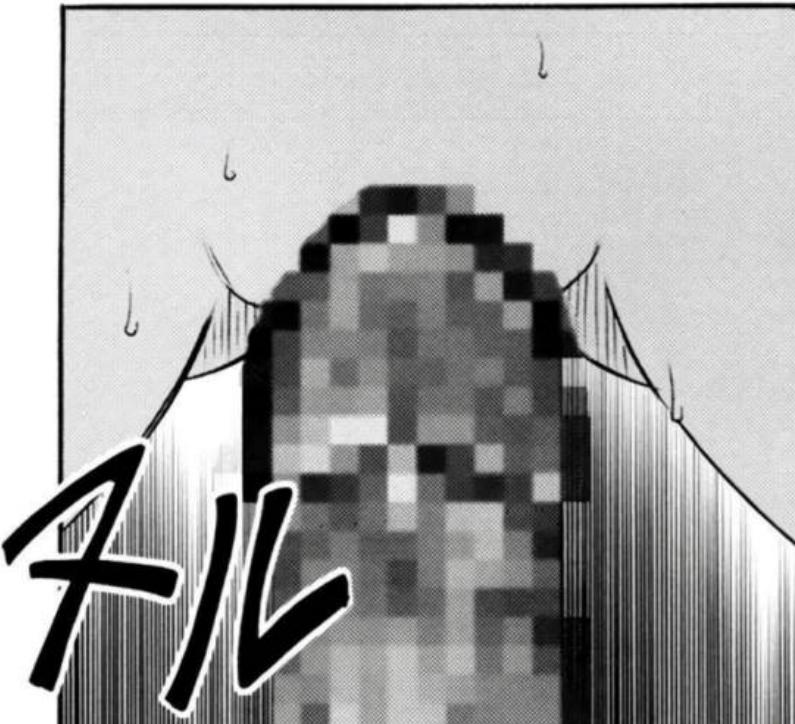




夜一様が…







ああああああああつ！







ああああああああッ！

ぶる  
ぶる

グチュ



ソシナ…



夜一様…ガ…



あああッ！



お前も夜一と  
同じように  
犯してやるぜ

いやつ！

や…やめろ！

ナル

OK  
挿入準備

あああああッ！



莫迦な……！

やめッ…  
くッ！

…ッ！

こんなの…

ブクル

ブチュ

んんんッ！

せまいなあ  
処女つていうウワサも  
本当みたいだな





……！









あああ  
ああツ  
！

ぶる  
ぶる

だから…

今度は私を  
おいていかないで下さい…

夜一様…





だから…

今度は私を  
おいていいかないで下さい…

夜一様…



・碎蜂は苦手なスレンダー系のキャラクターでしたが  
わりと満足のいく感じでしあげることができました。

ちなみに今回のお話で出てきた夜一を犯した虚みたいなモンスターは  
あの攻めキャラの男の斬魄刀という設定にしようかと思ったのですが  
まあそんな説明はエロスとはそんなに関係ないし メインテーマとも関係ないから  
どっちでもいいかと思って作中では何の説明もしていません。

・碎蜂の刑戦装束はなつかしの壱与さまを彷彿とさせるものがありますね。  
だから「わき」を責めてみたりしました。  
しかしあの装束はずいぶんエロいですよね。  
アニメではあの装束の下に白い布を上下に着込んでいました。  
だから横乳もパンツの紐も何も見えません。

しかしあの服は夜一が瞬間を使うから背中と肩の布がないわけであって  
そういう事情を知らずに碎蜂は「なんかこの服は恥ずかしいな～」とか  
思いながら ずっと着続けていたのかと思うとかわいいですね。

・私がBLEACHが本当に面白いマンガだな と思い出したのは148話ですね。  
コミックスでいうと17巻。東仙要が更木に負けるシーンです。  
ここの東仙の回想シーンにててくる「美しい女性」の顔に微妙に目立たないくらいに感じて  
火傷かなにかの痕があるんですよね。  
何か顔にコンプレックスがあるから目の見えない東仙と仲良くしてたのかな～  
夫に殺されたというのも何か顔のこともあって仲良くなかったのかな～などといろいろ考えたり。  
並のマンガならこの回想シーンだけでだいたい一話使いきるところですが  
同じ話の中で狛村の犬顔が発覚して、  
しかもその上に狛村の卍解がめちゃくちゃデカかったりして  
盛りだくさんな内容でした。この148話をみてBLEACHは今後も安泰だなと思いました。

あと 好きな回は「憧れは理解とは最も遠い感情だよ」という回ですね。  
このセリフは碎蜂にもあてはまるセリフかも…。

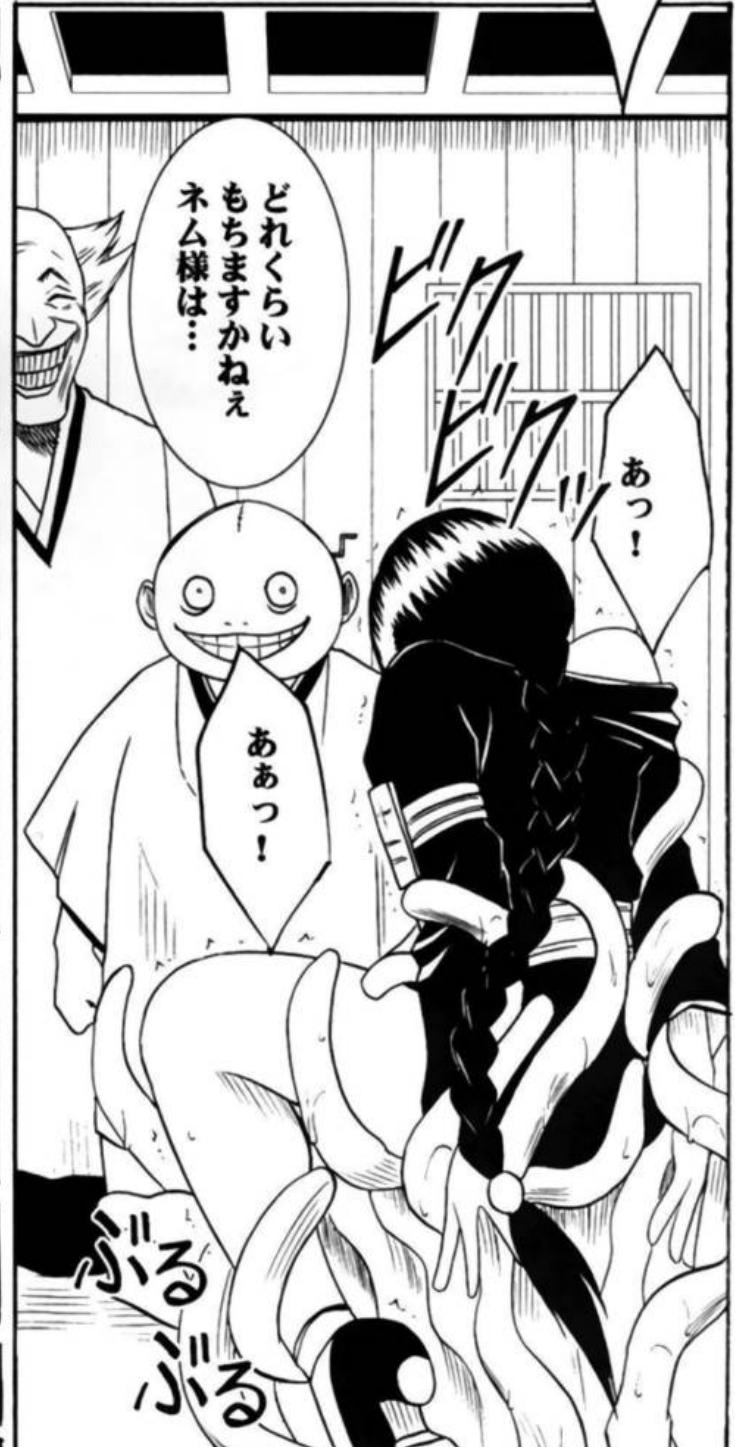




ああああつ！



どれくらい  
もちますかねえ  
ネム様は…



3分経過

やつぱりネム様では  
敏感すぎて  
ダメだつたか

まあそういうふうに  
造られてる  
から仕方ないか

は  
二

はつ

もうダメか：

クチクチ

アーリー





# Torture Rack

サルバノの破碎日

なんか  
あたしくらいしか  
できない役つて  
聞いてきたんだけど…

いつたい  
何するの？

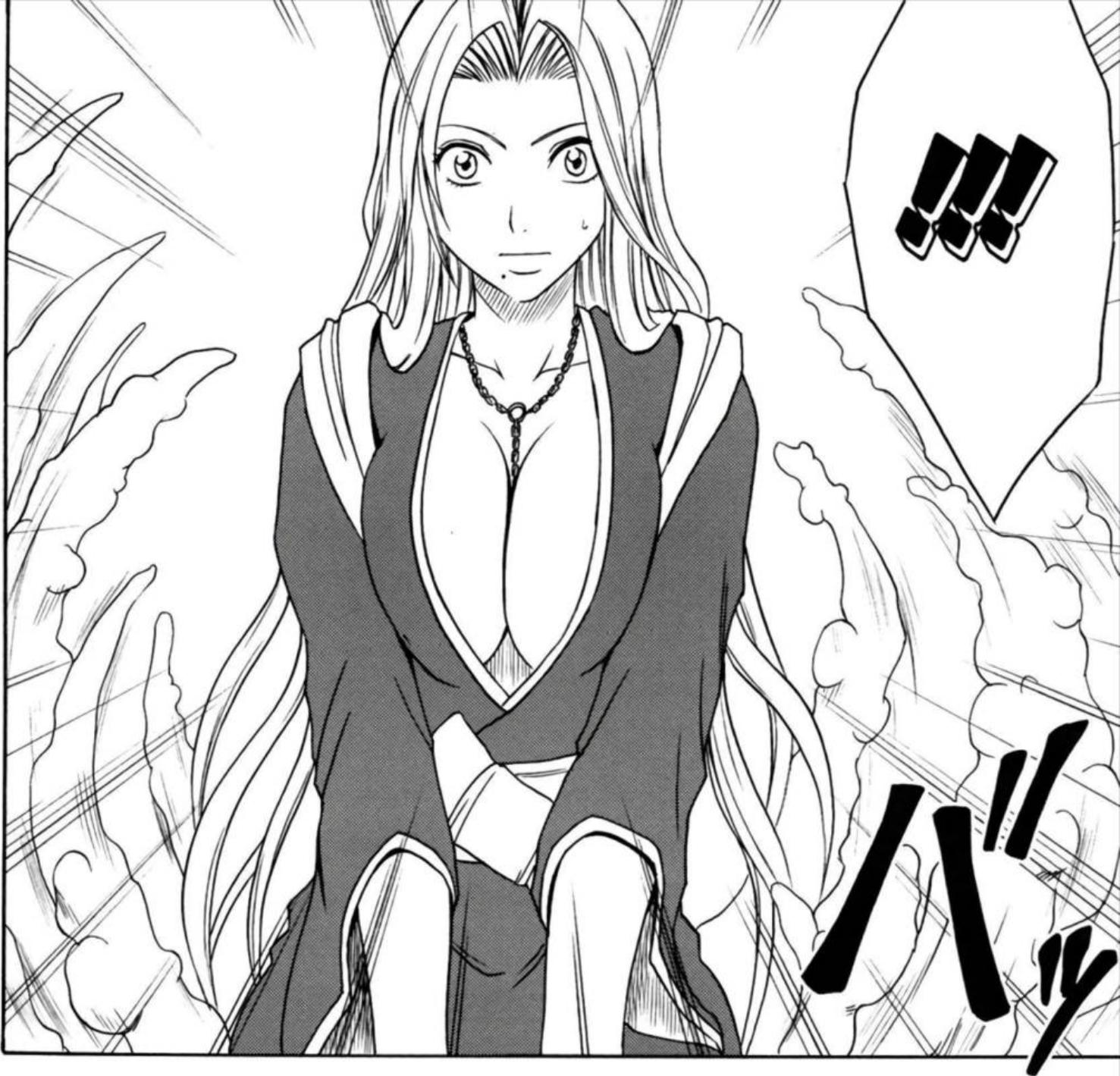
あんまり  
面倒くさいのは  
いやよ

ええ是非  
松本副隊長に  
協力して  
いただきたくて

我が  
技術開発局の  
新たなる装置を

是非ためして  
いただきたくて…

じゃあ  
始めますよー

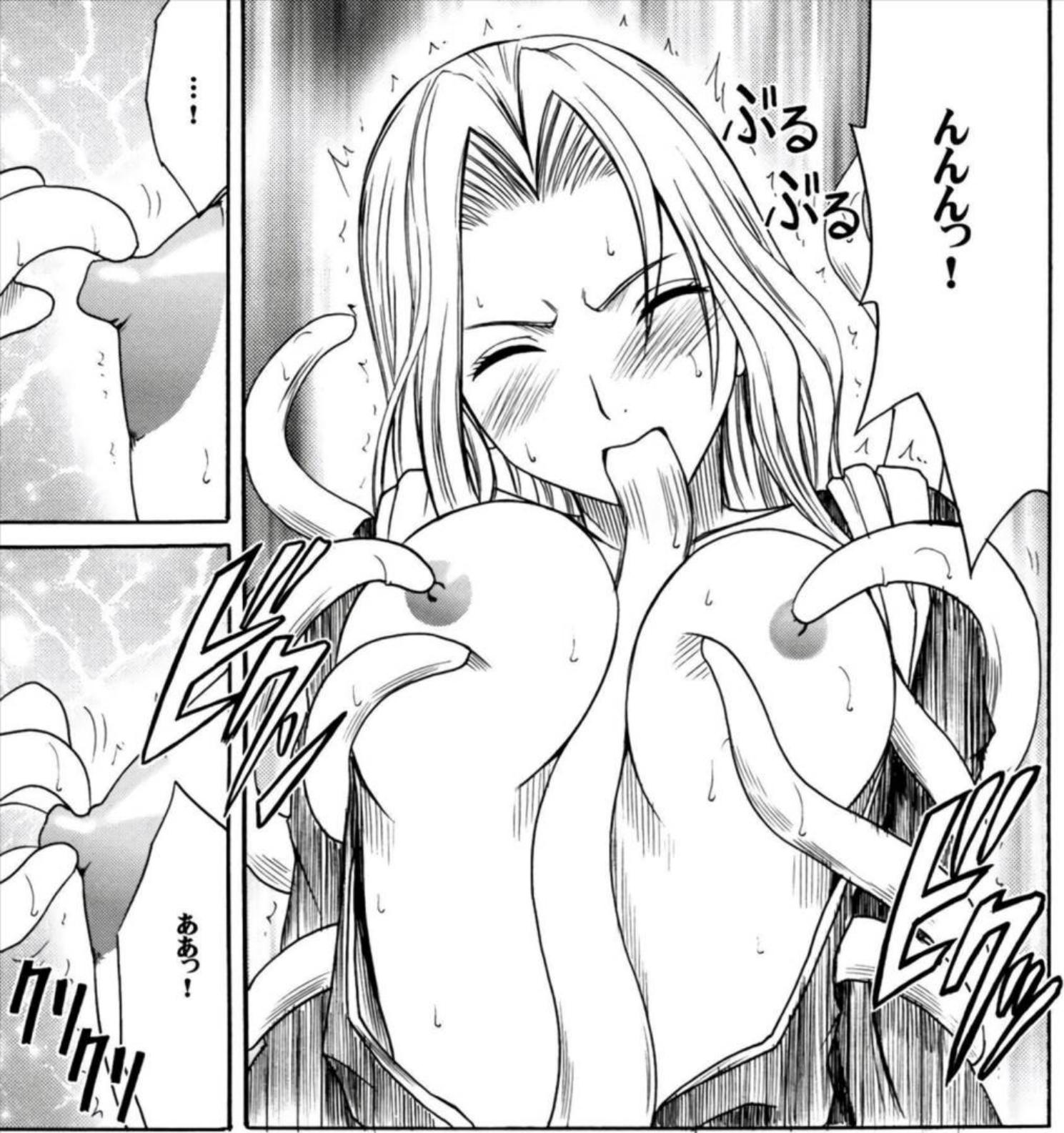












女を感じさせる  
あらゆるアクターを  
つめこんでいるんですよ

そのイスは  
温度 質感 動き  
そして淫毒…

がんばります  
ねえ

はやくこれを  
止めて…！

ふ…ふざけない  
でよ！

じやあ  
松本副隊長の  
好きな体位は？

拷問ですか

さすがの松本副隊長も  
そろそろ気持ちよく  
なってきたんじや  
ないですか？

くそつ……このヘンタイどもを  
甘くみてた……！

んう！

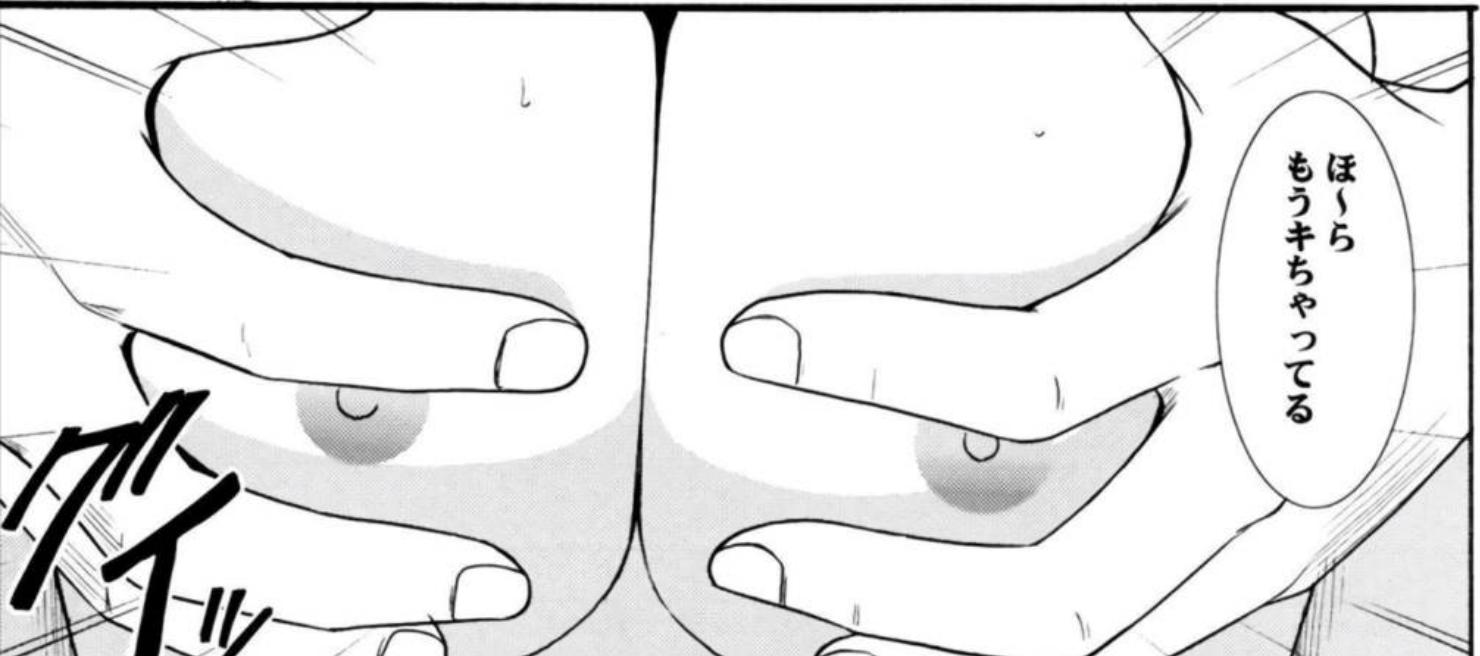
おつ  
触手がついに  
股間へ到達しましたね

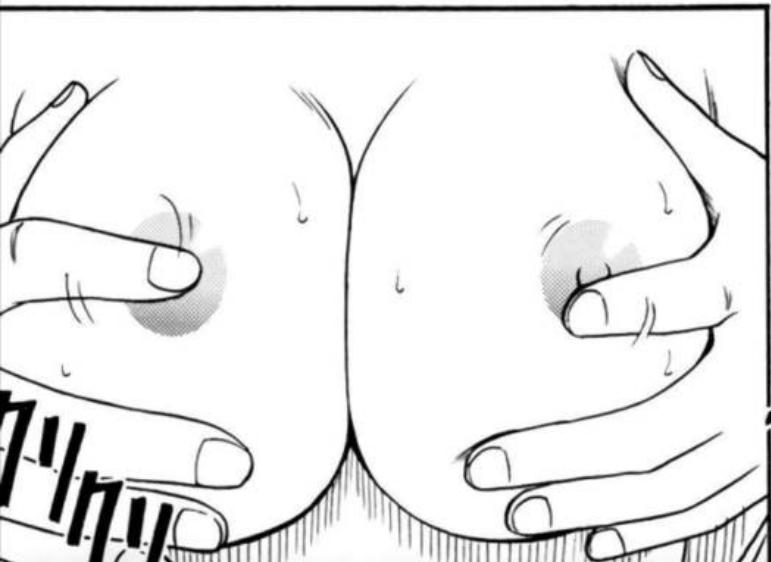
まさかこんな…(！)

ナル  
ナル

一分経過  
で…す

クル  
クル  
クル  
クル

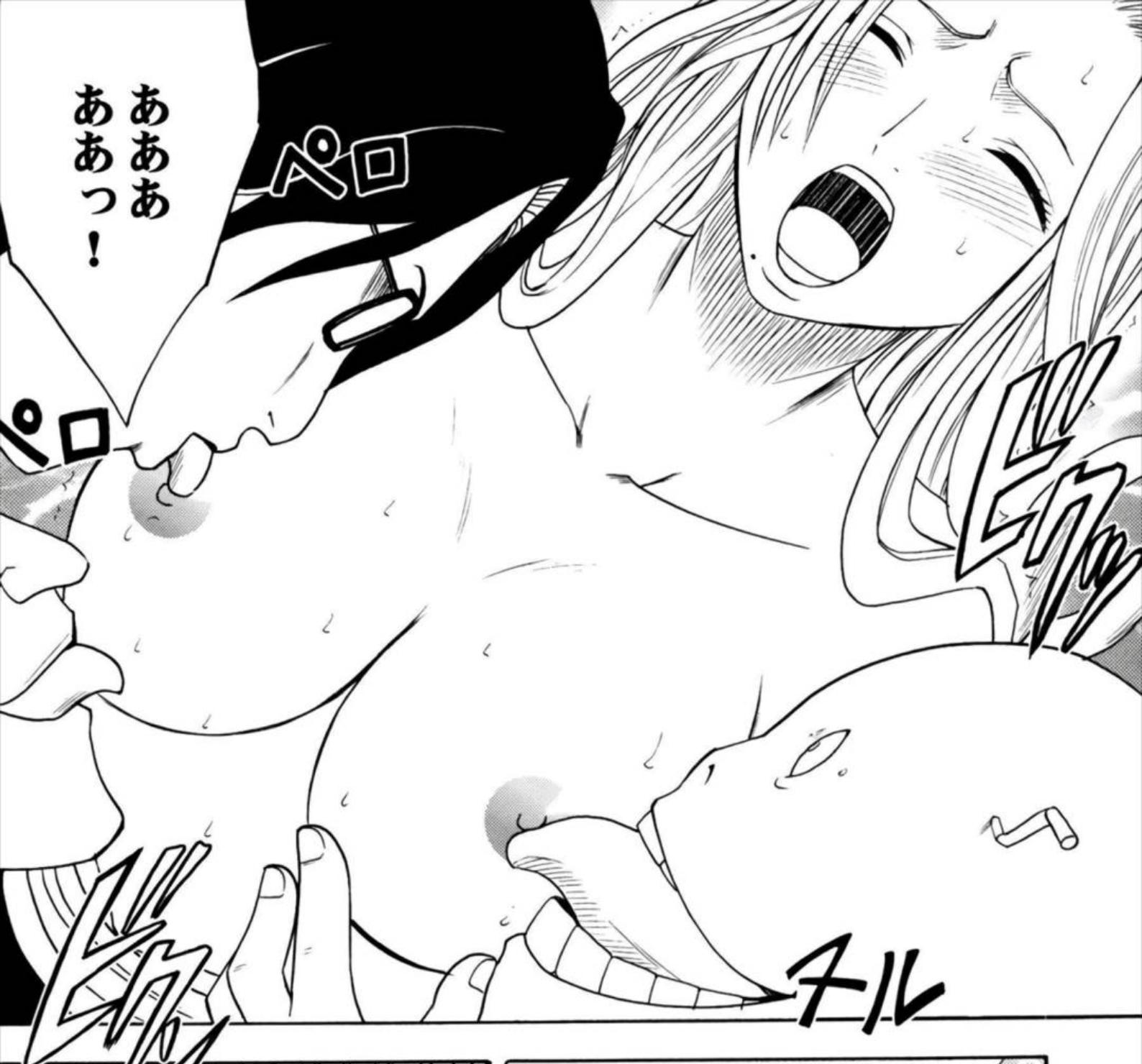




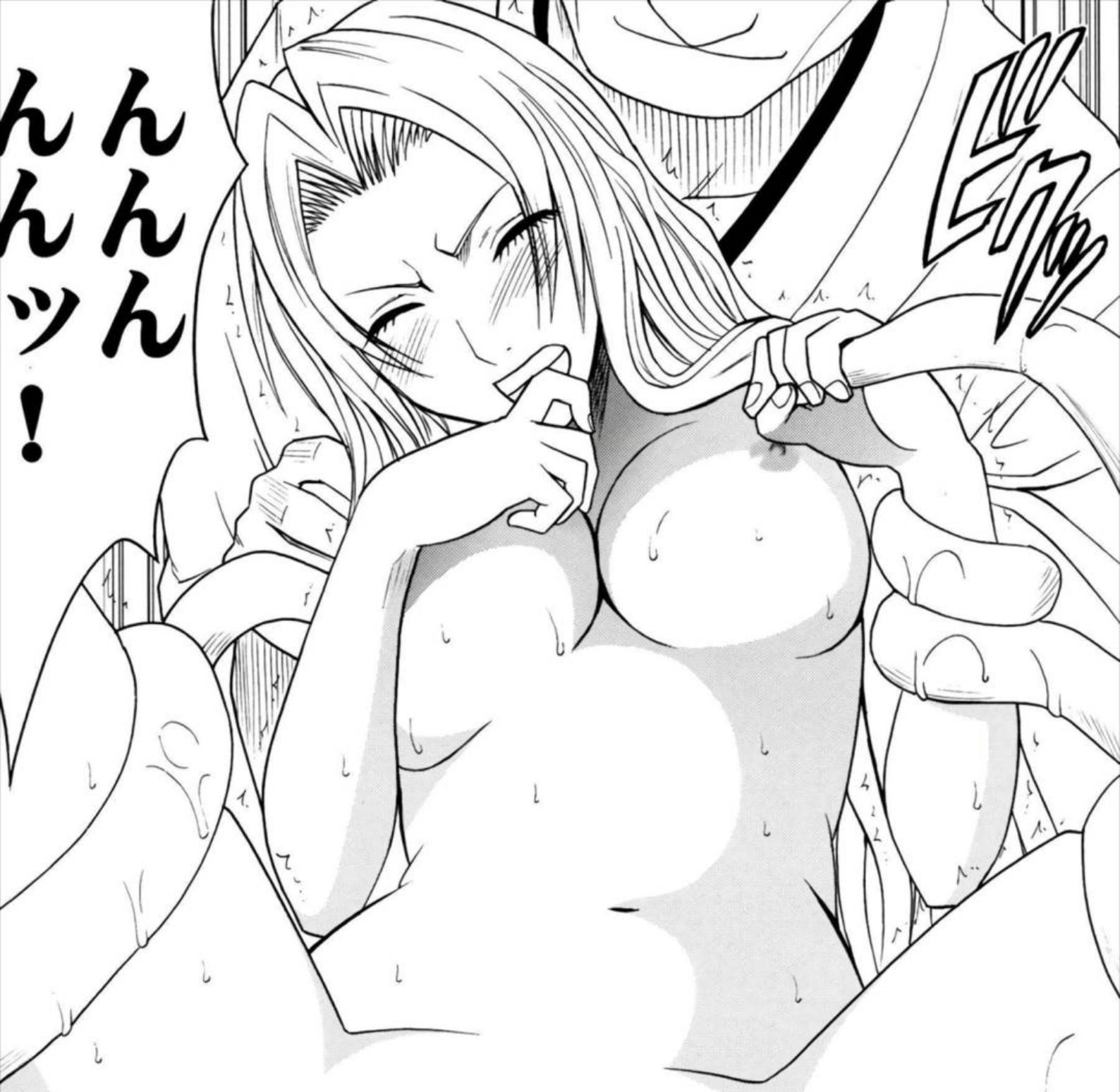


ついかテメー  
何勝手に  
揉んでんだよ

これは拷問装置の  
実験だろ？が







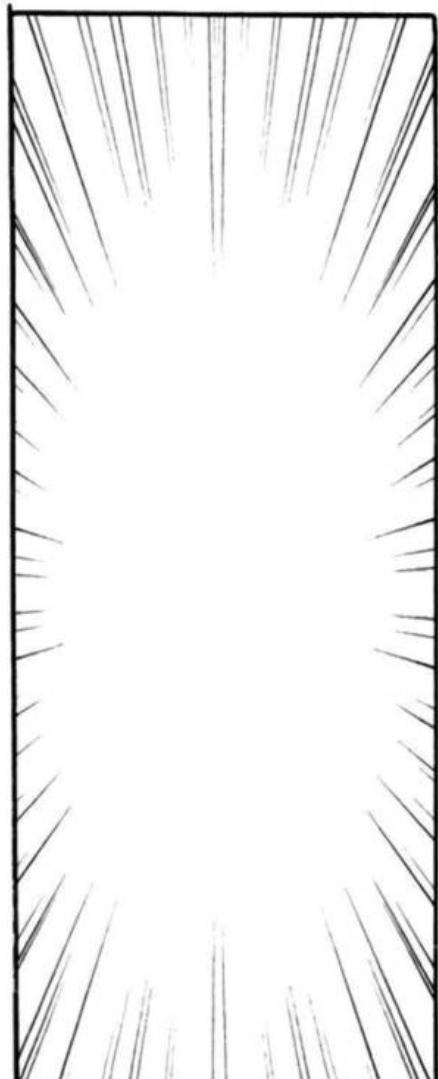
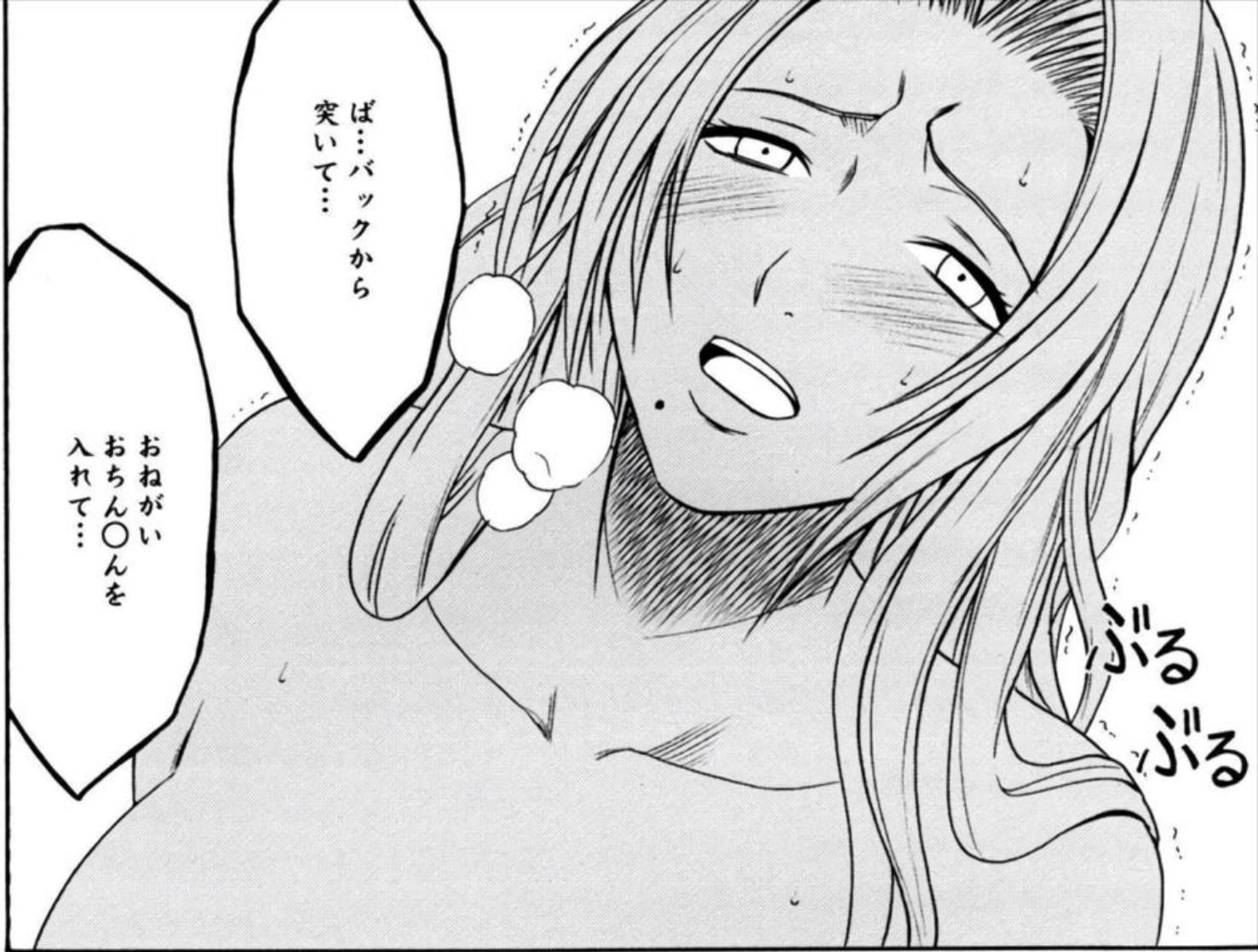


ああああああッ！

ぶる  
ぶる

グチ  
グチ  
グチ  
グチ







あああつ！

どうですか  
松本副隊長

触手もいいけど  
コレもなかなかの  
ものでしょ？

あつ！





くうああ  
ああッ……！



ここからは  
単なる  
女体遊びの  
時間だな

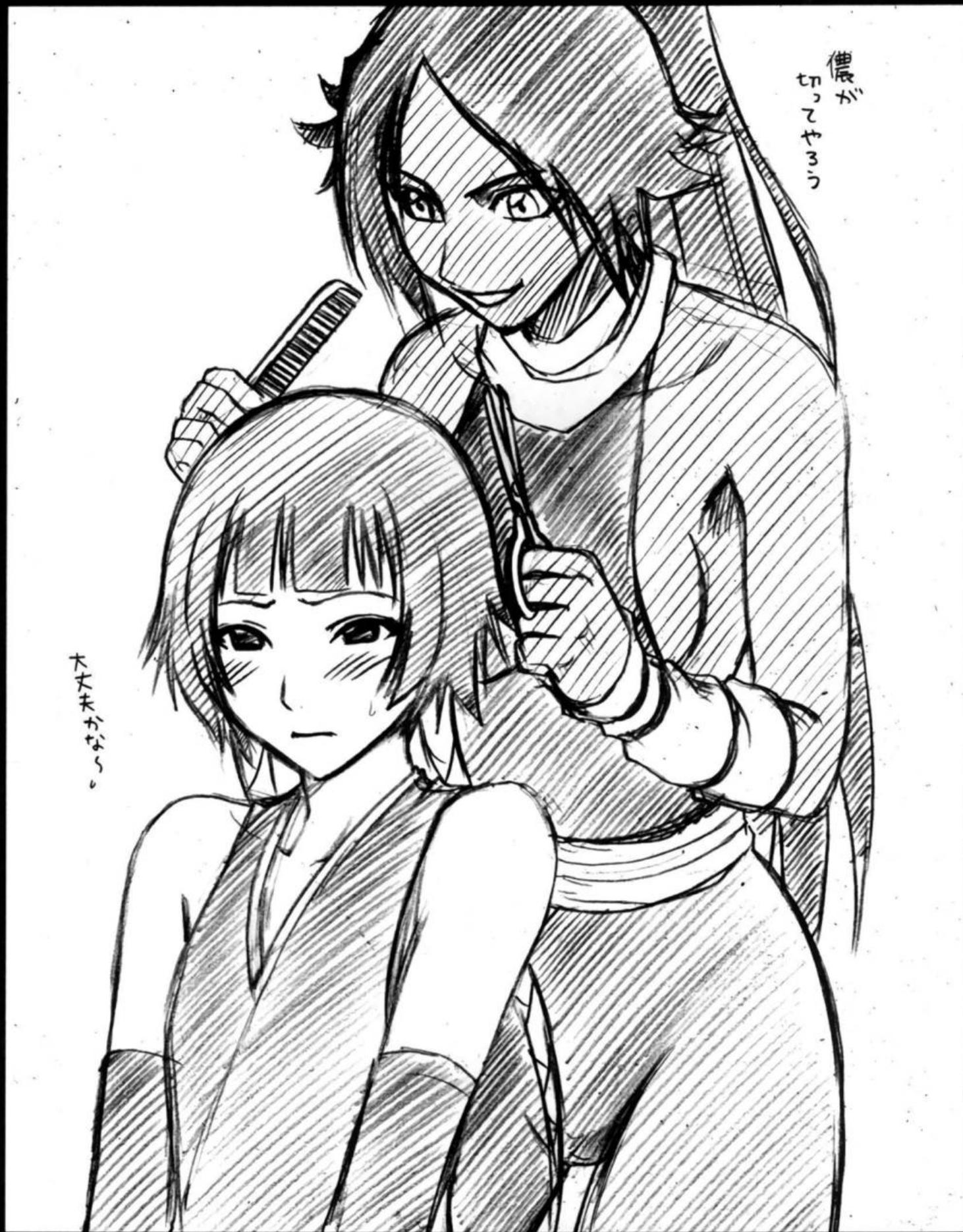


んう  
んう  
んう  
んう

!

ふる  
ふる





「夜一が髪を切ってやると言つてきて 何か遊ばれてるのではないかと心配な碎蜂…  
でも本当は嬉しい」の図

碎蜂って夜一との戦いのときに結局元解してないんですね。(隊長は更木以外は全員元解できる)だからやっぱり本気で夜一を倒すつもりはなく ただじゅれあっていただけなのかなと思いました。

クリムゾンコミックス

CRIMSON  
COMICS

# 大輪の華

たいりんのはな



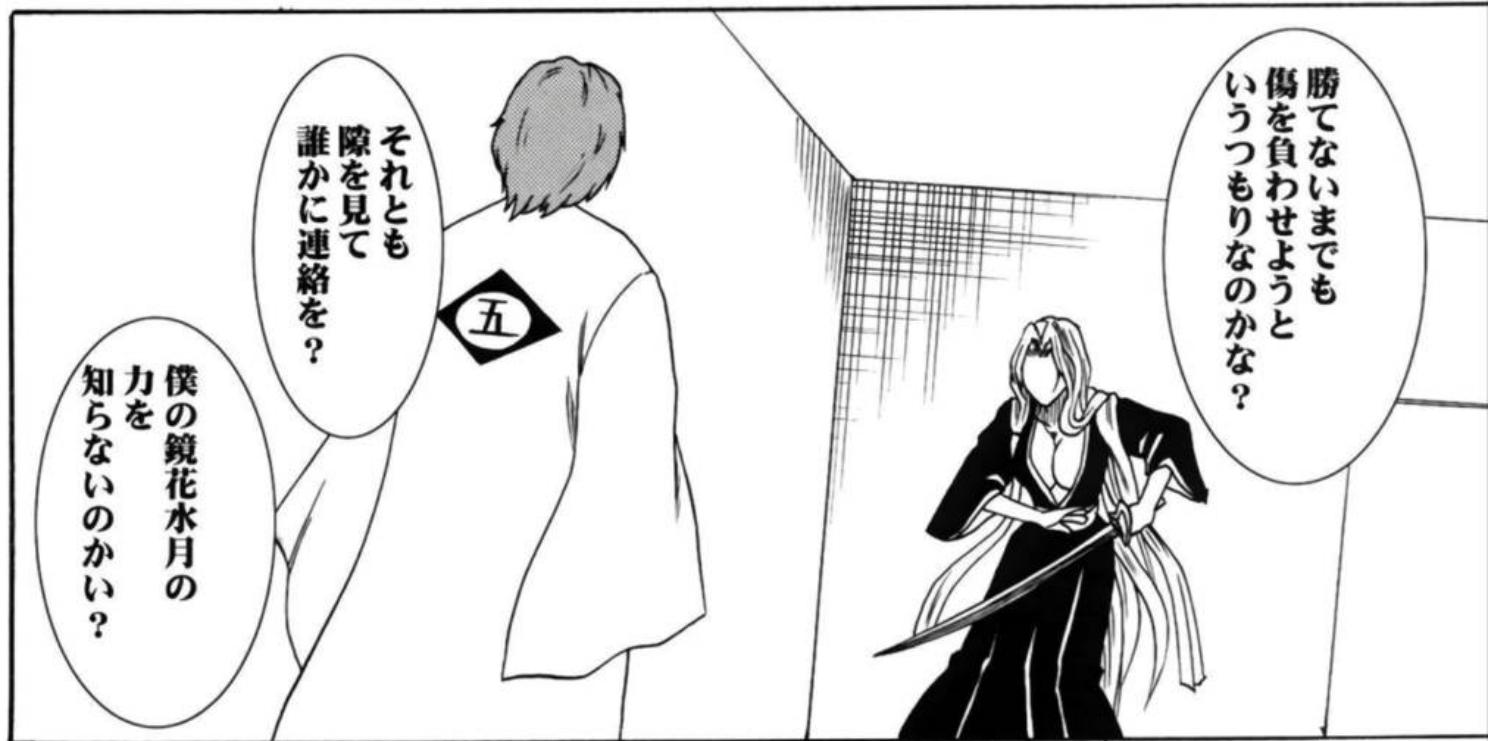
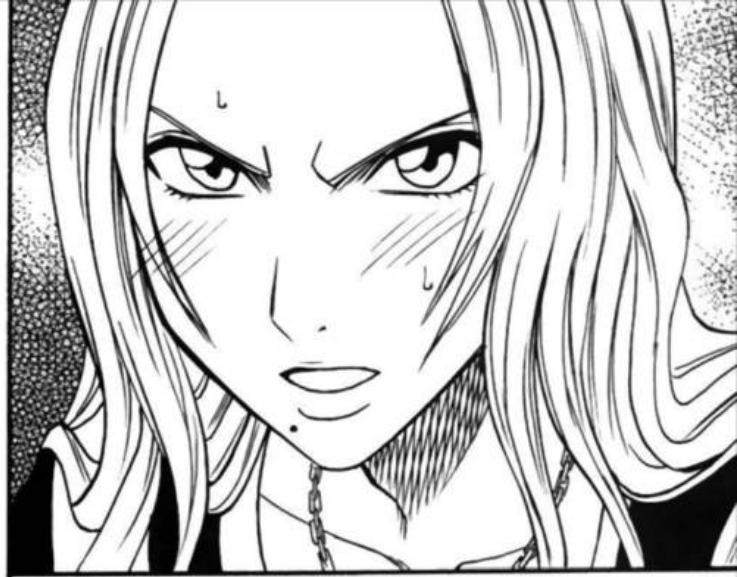
藍染…！

…！  
なんで  
こんなところに

なぜも  
何も…

敵戦力の分散は  
戦術の初步  
だろう？

くつ…！



完全催眠の  
前では  
何もできないと  
いうことを  
思い知ると  
いい



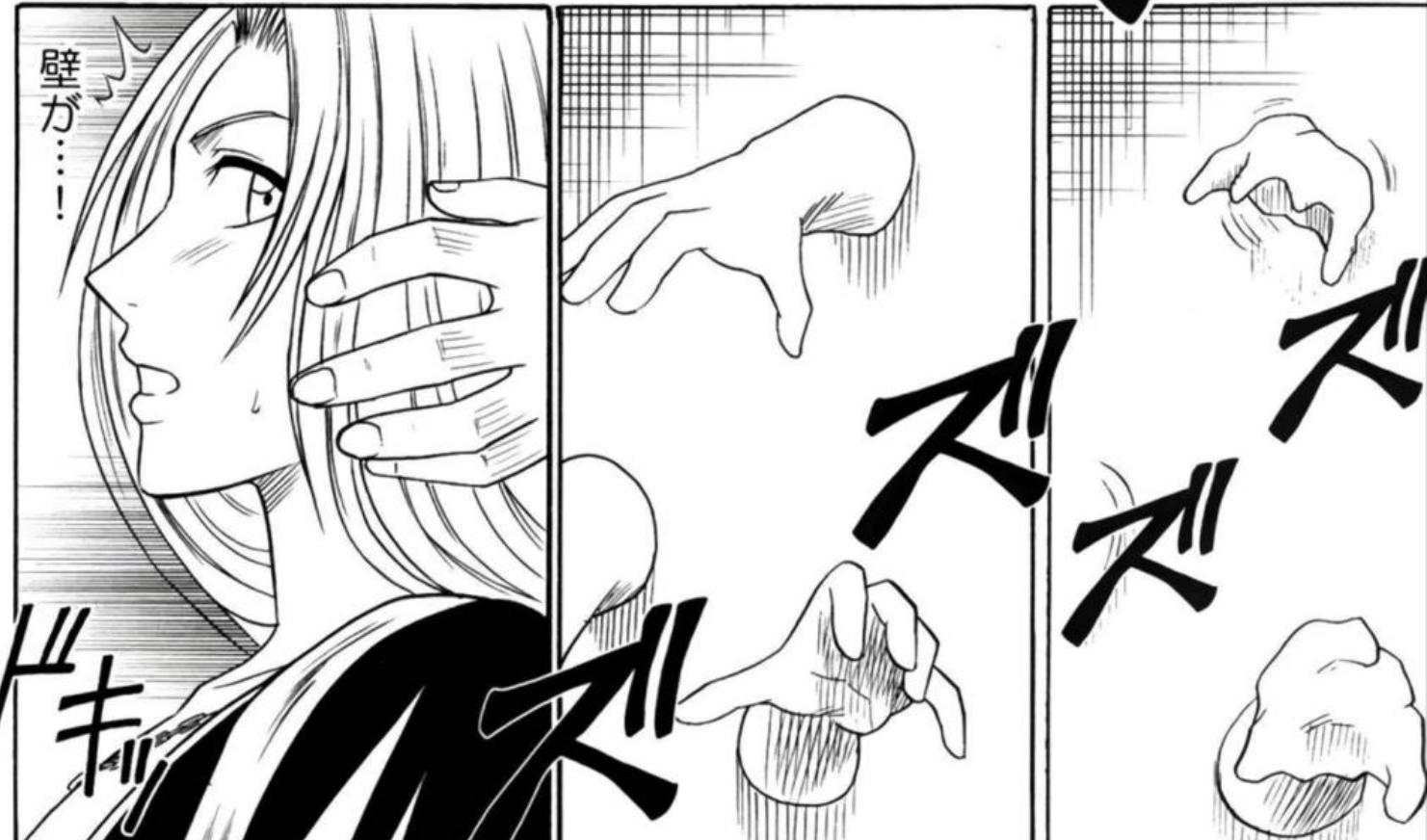
大輪の華

第一話

Learn it

作 / クリムゾン



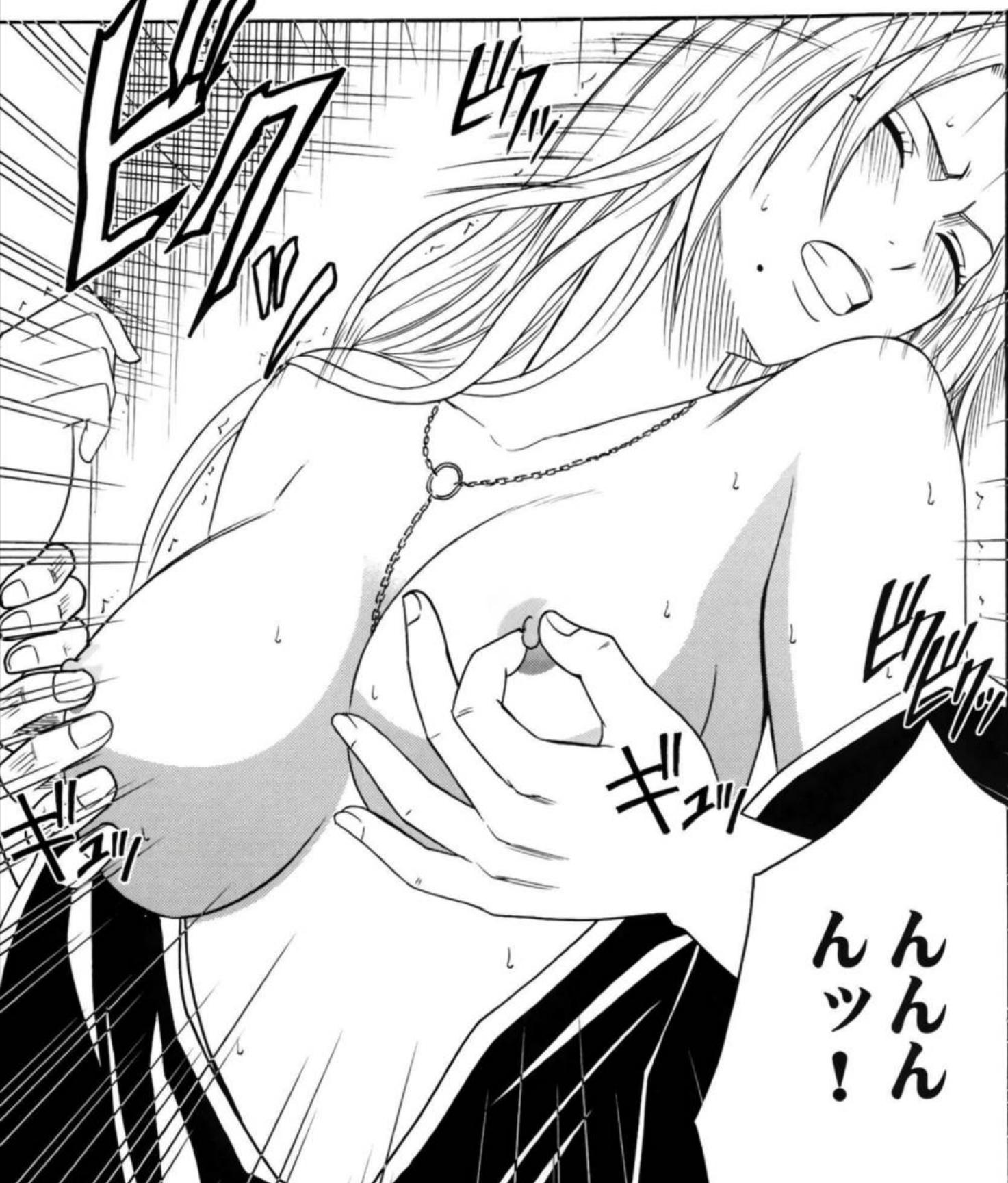
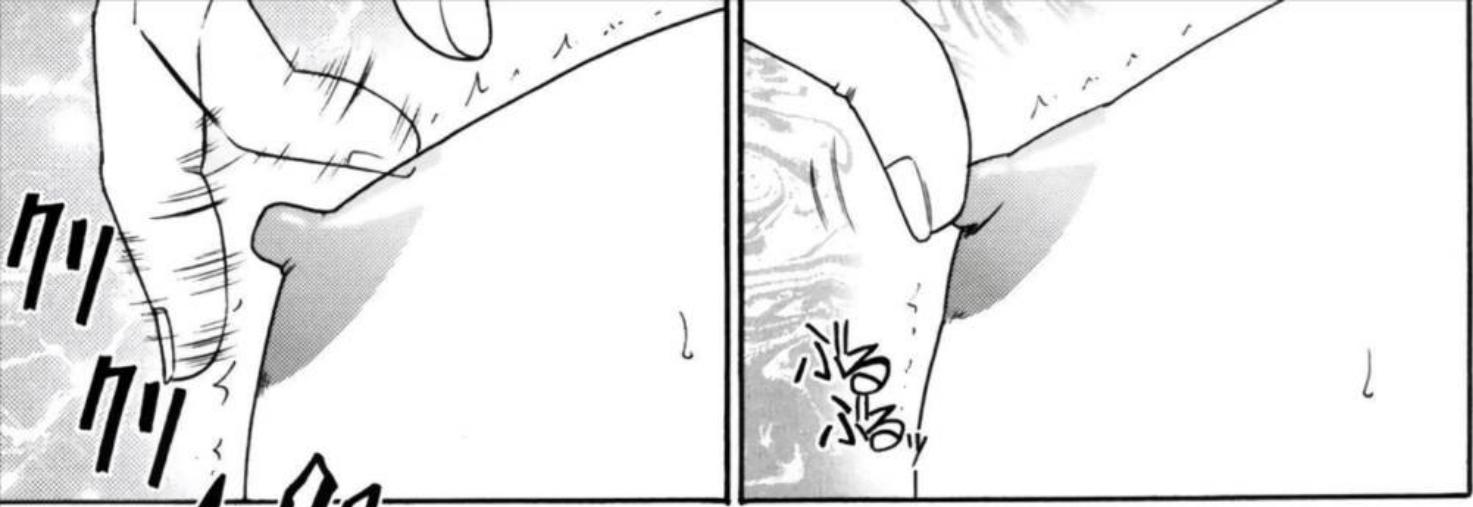




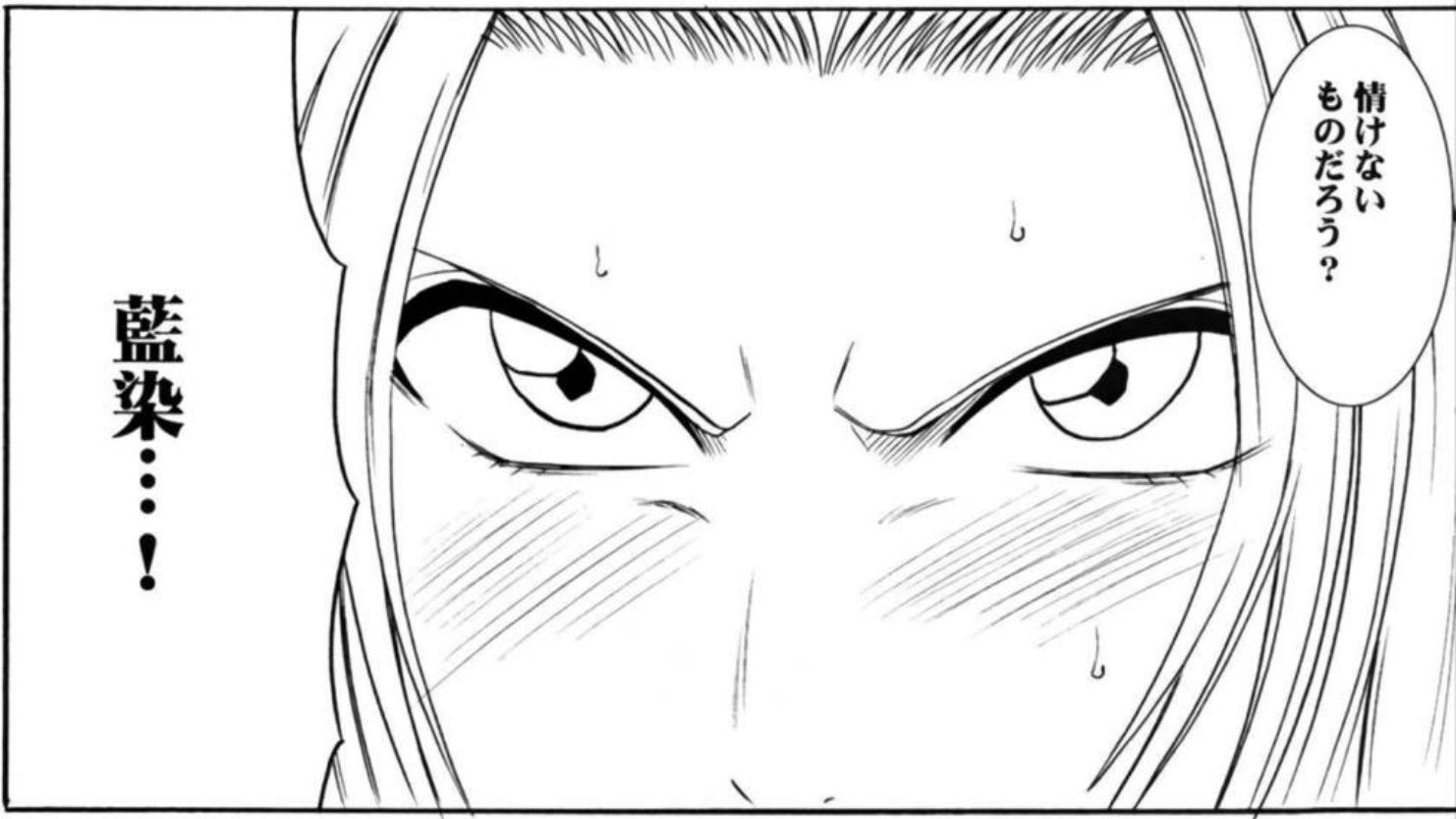








完全催眠とは言つても  
君の感情まで  
操つてゐる  
わけではない

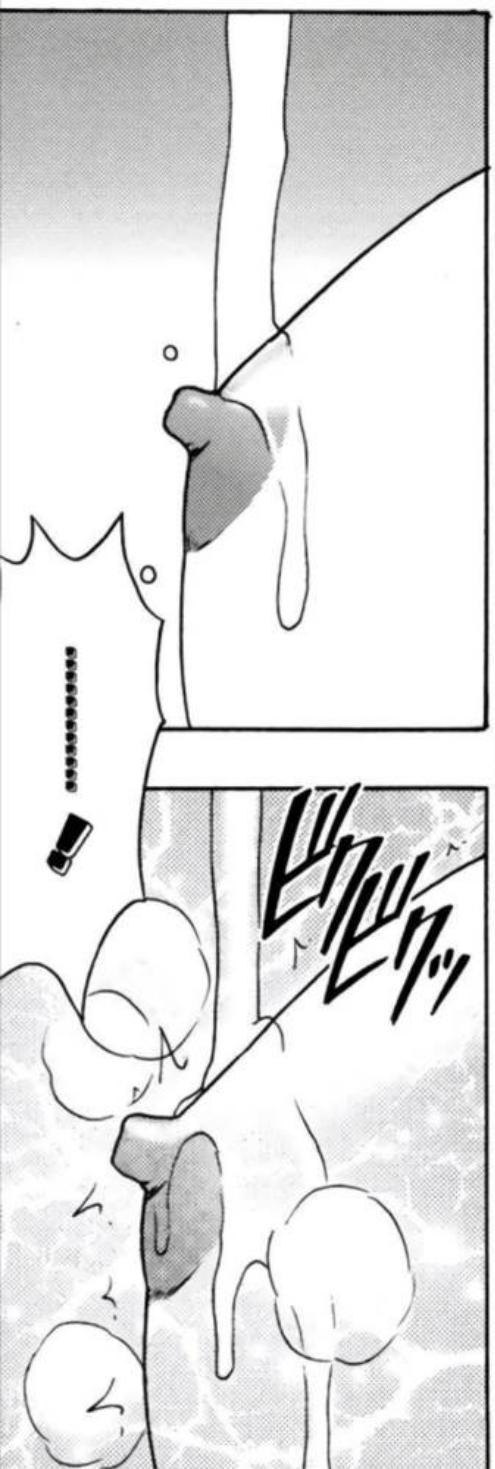






少しだけ  
愉しくなつて  
きたよ

羞恥に対する  
抵抗力は  
強いというわけだ



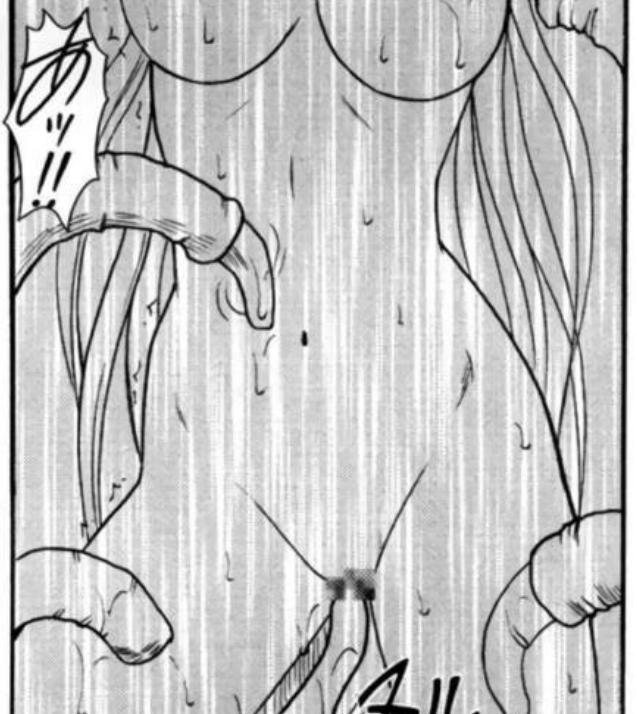






ああああ  
あああつ！





敵の目の前で  
こんな無様な姿

敵の目の前で  
こんな無様な姿をさらす

その上  
気持ちよくなれるなんて

411

414

FIL  
FIL



あああああ  
あああああ



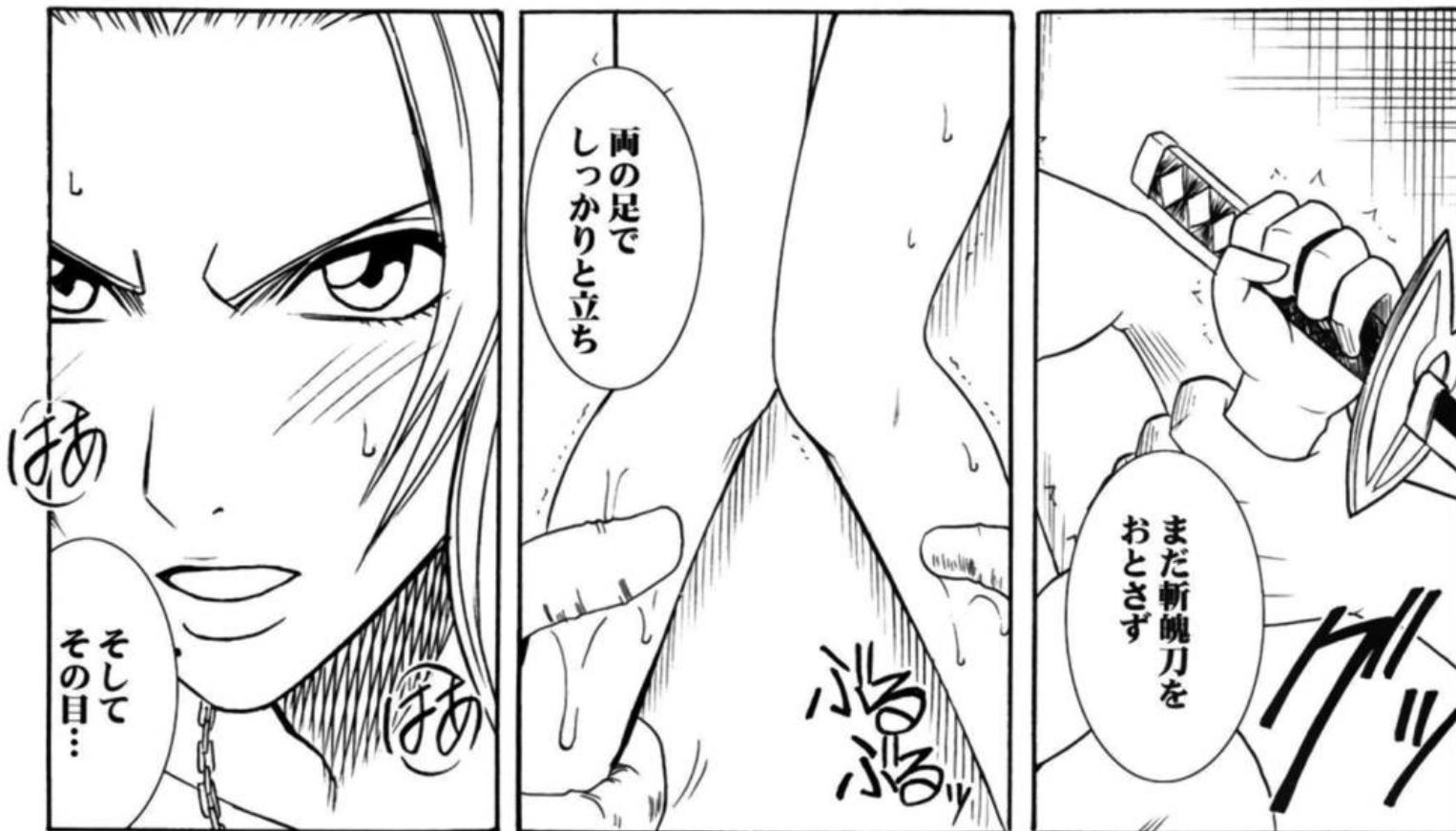
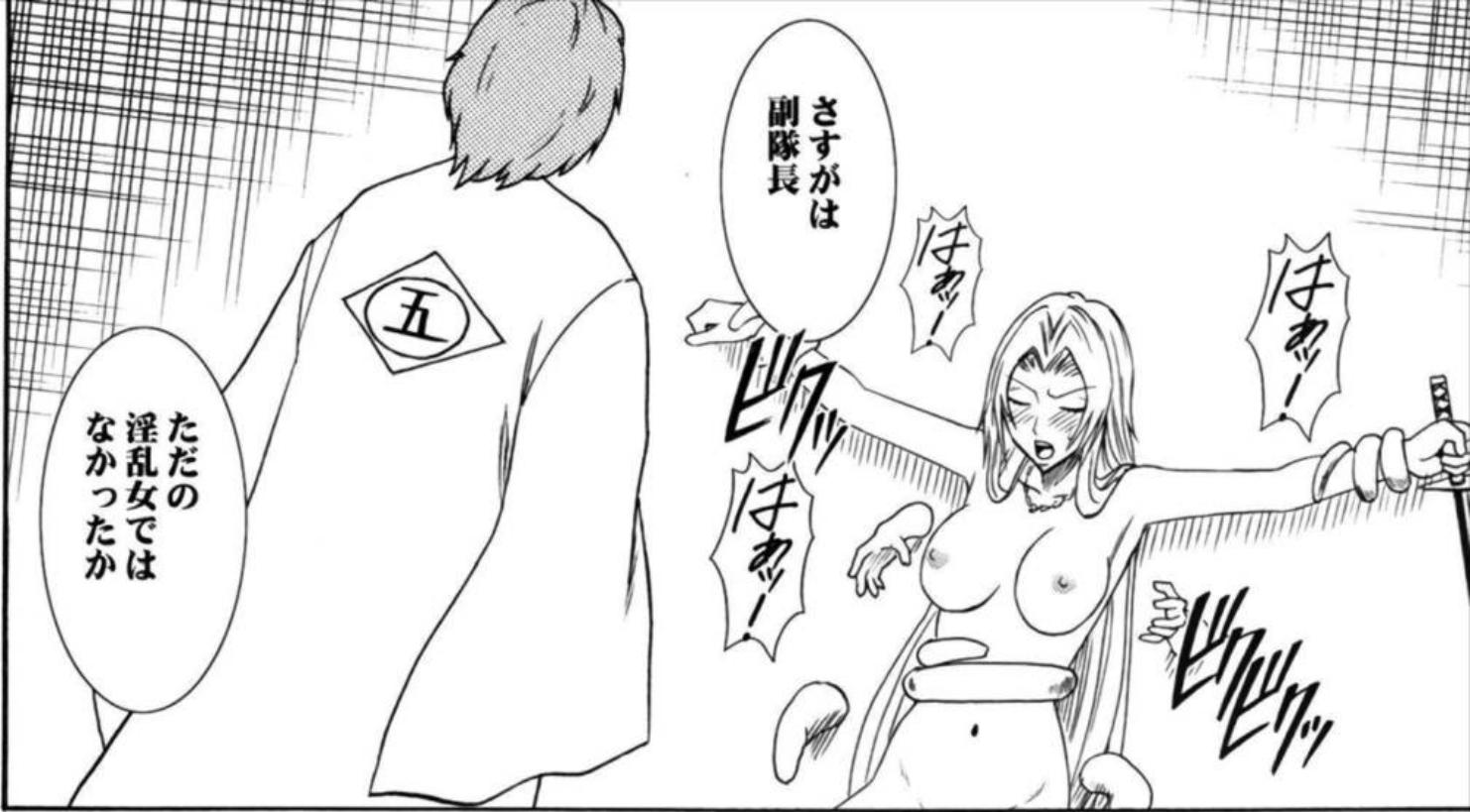
大輪の華

第二話

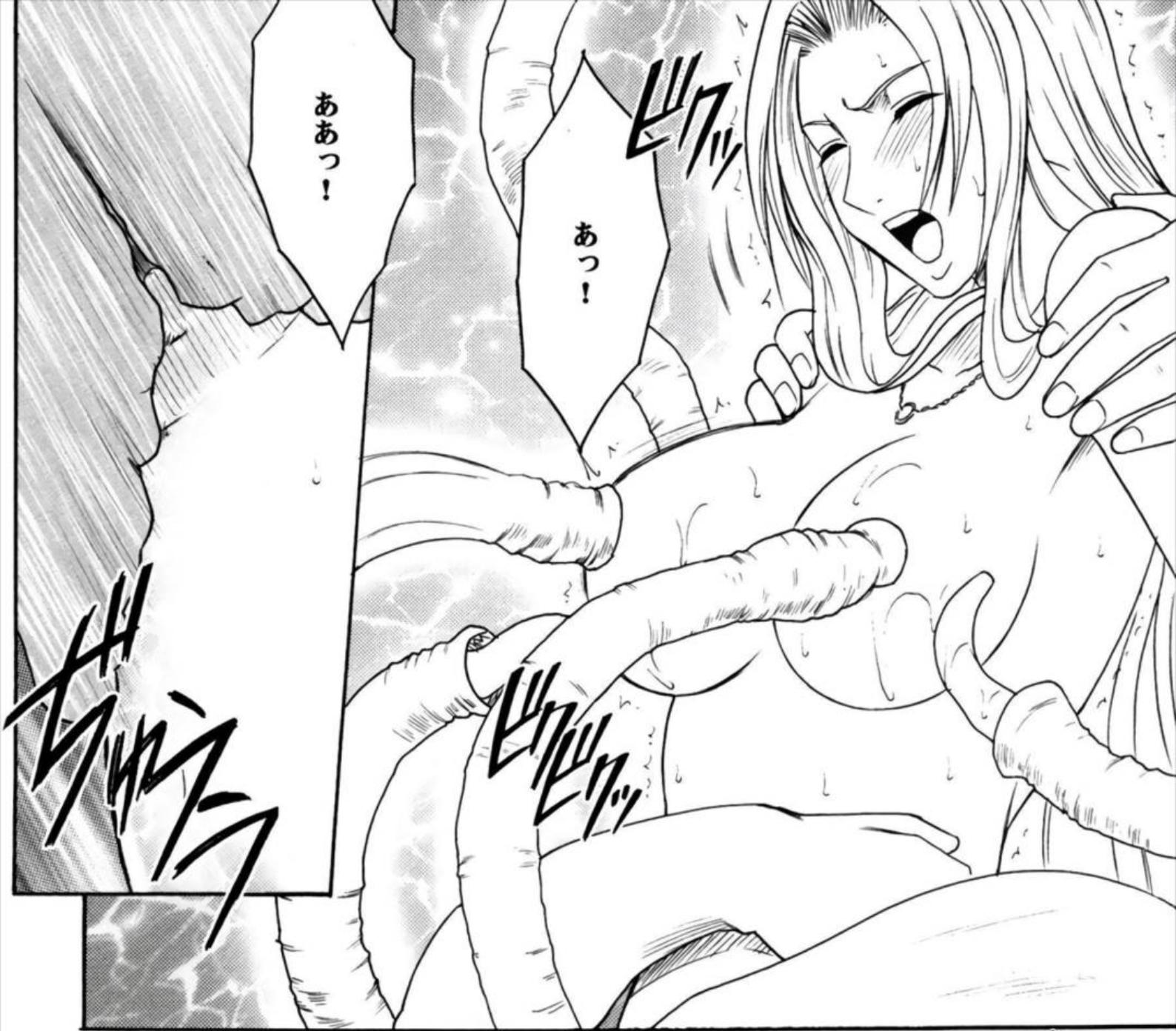
「Betrayal」

作 / クリムゾン













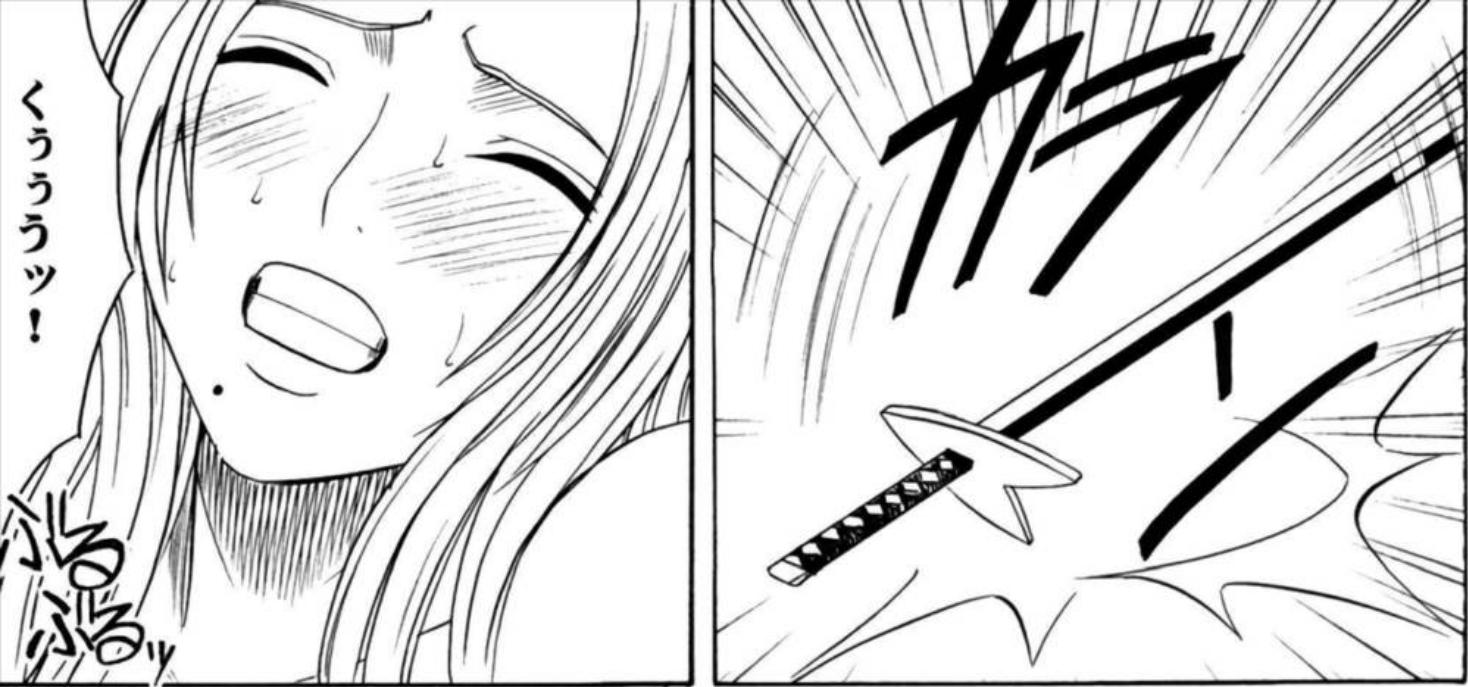


うああああああ

!!

グチ

グチ





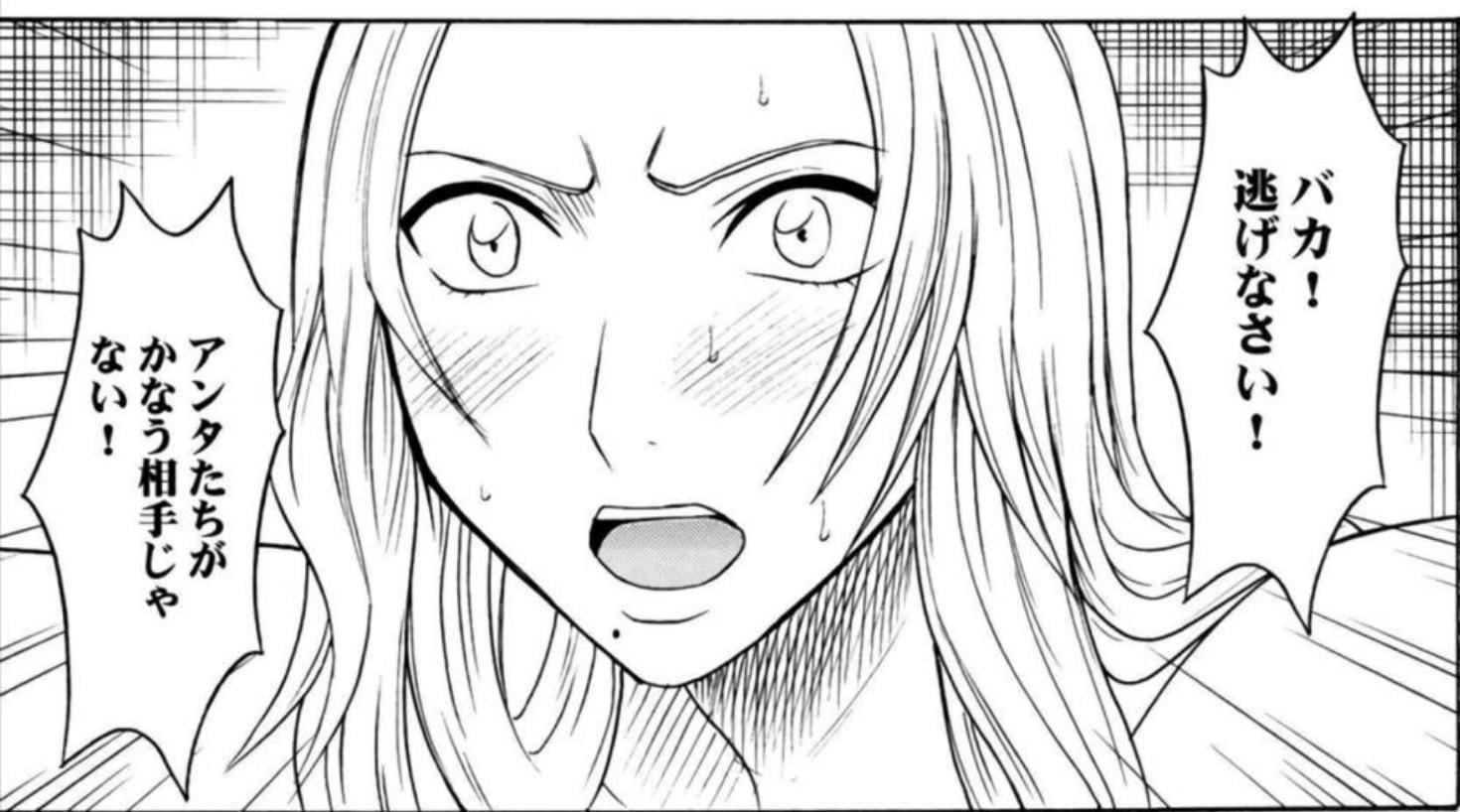
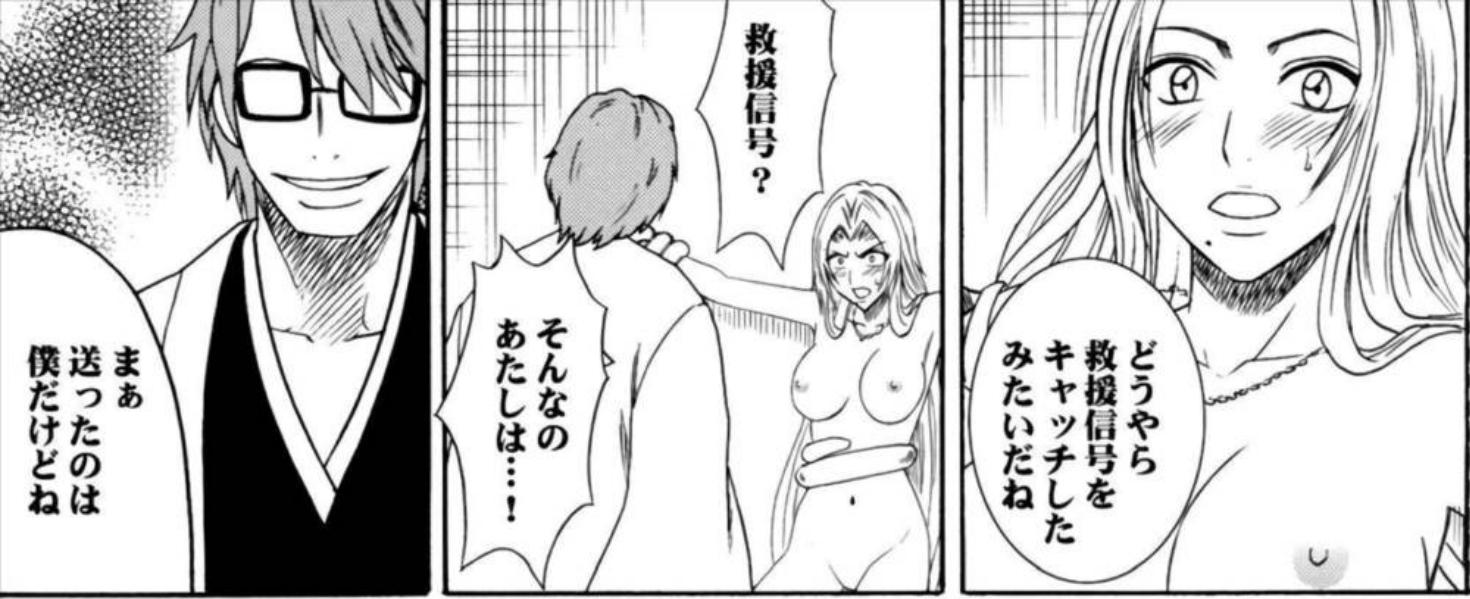
ん  
ん  
う  
ん  
ん  
ツ  
ん  
！

モ  
モ

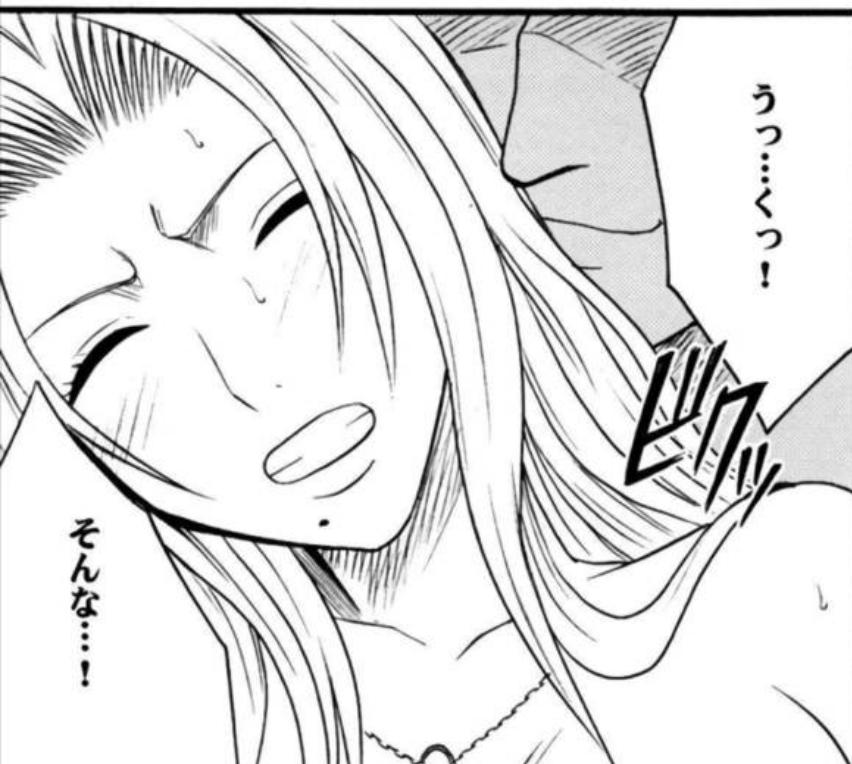
モ  
モ

ふ  
ふ









うつ…くつ！

そんな…！











うあっ……

チル

もちろん  
前の穴にも  
入れてあげますよ

ふるふる

やめッ……！

二人同時だけど  
松本副隊長なら  
問題ないですよね

やめろッ！

ああああ  
ああああ  
ああああ  
ああああ  
ツ！



あたしは  
本当に部下に犯されてるー！





じゃあ  
出しちゃいますよ

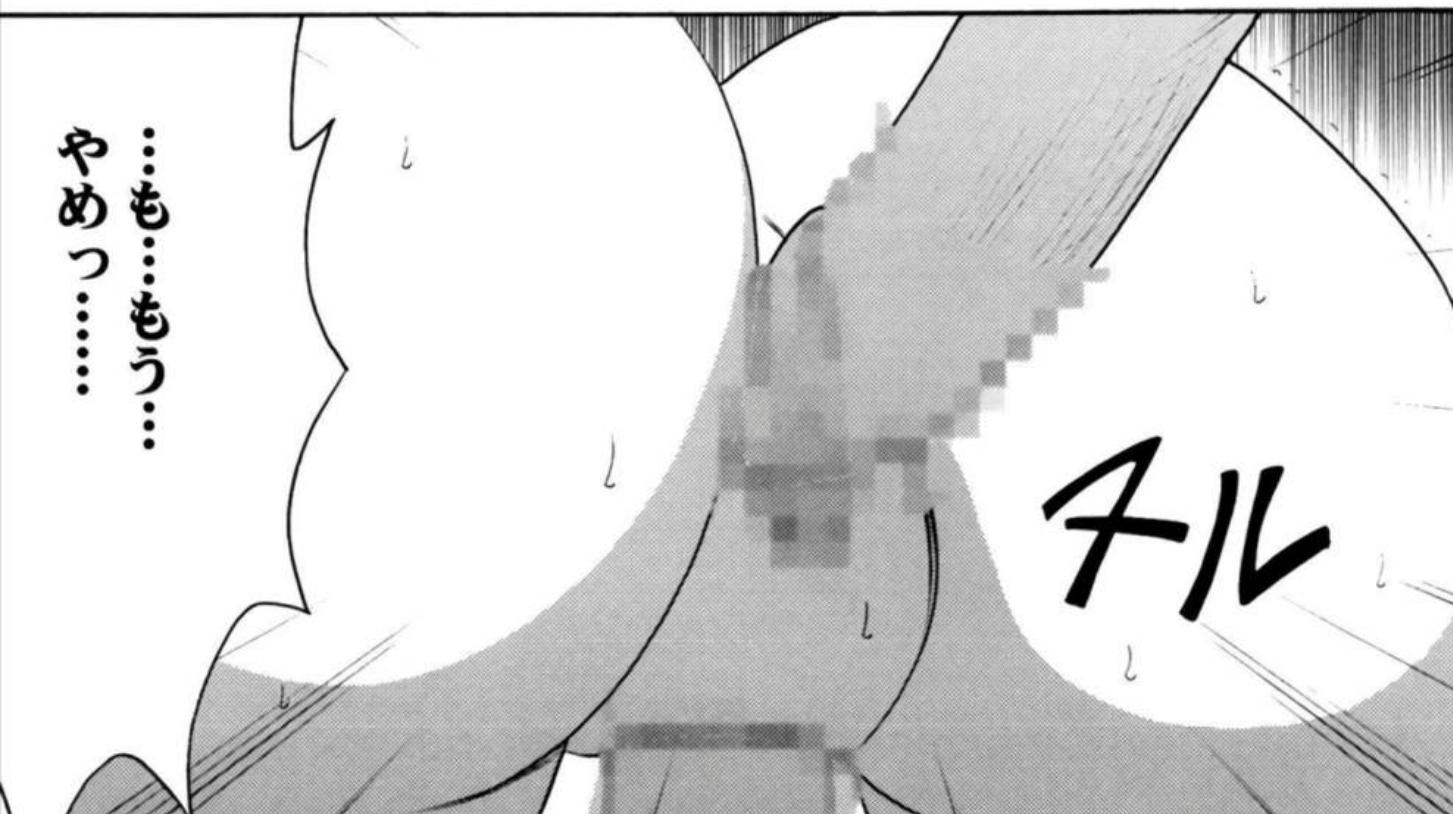
もう  
出ちやいそう  
ですよ

やっぱ  
二穴同時だと  
締まりが違いますね



次は  
オレの番ですね

じゃあ  
オレはケツに  
出させて  
もらいますよ







あああああ

ああああッ！

ヒク、ヒク、ヒク

ヒク

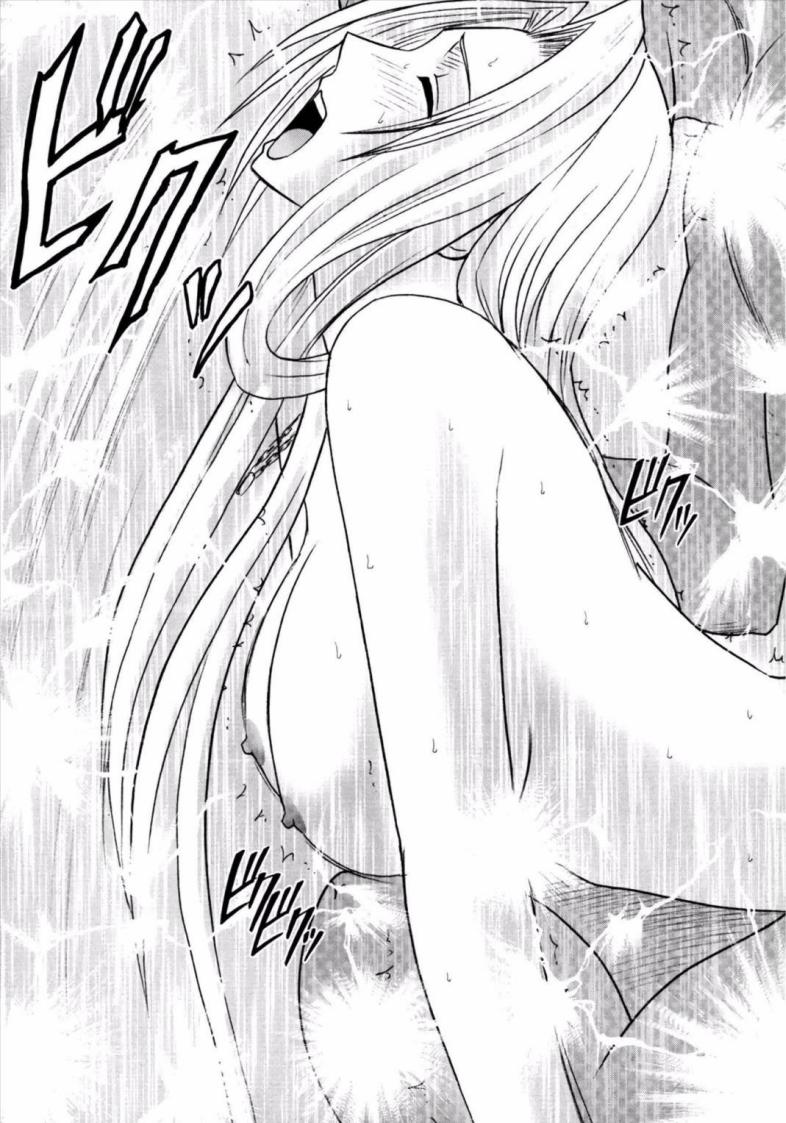
ヒク

ヒク



ああああ

ああああッ！





「5分も持たないと  
どういうことかネ」

「も…もうしわけ  
ありません…マユリ様…」

FOR ADULT ONLY

# 褐色の恋 かつしょくの こいびと



アンスリウム

Anthurium

おい  
雛森副隊長

何をしている

あ  
これですか？

なぜ抜く？

あ…碎蜂隊長  
めずらしいですね  
散歩ですか？

黒色の花は  
実を結ば  
ないんです

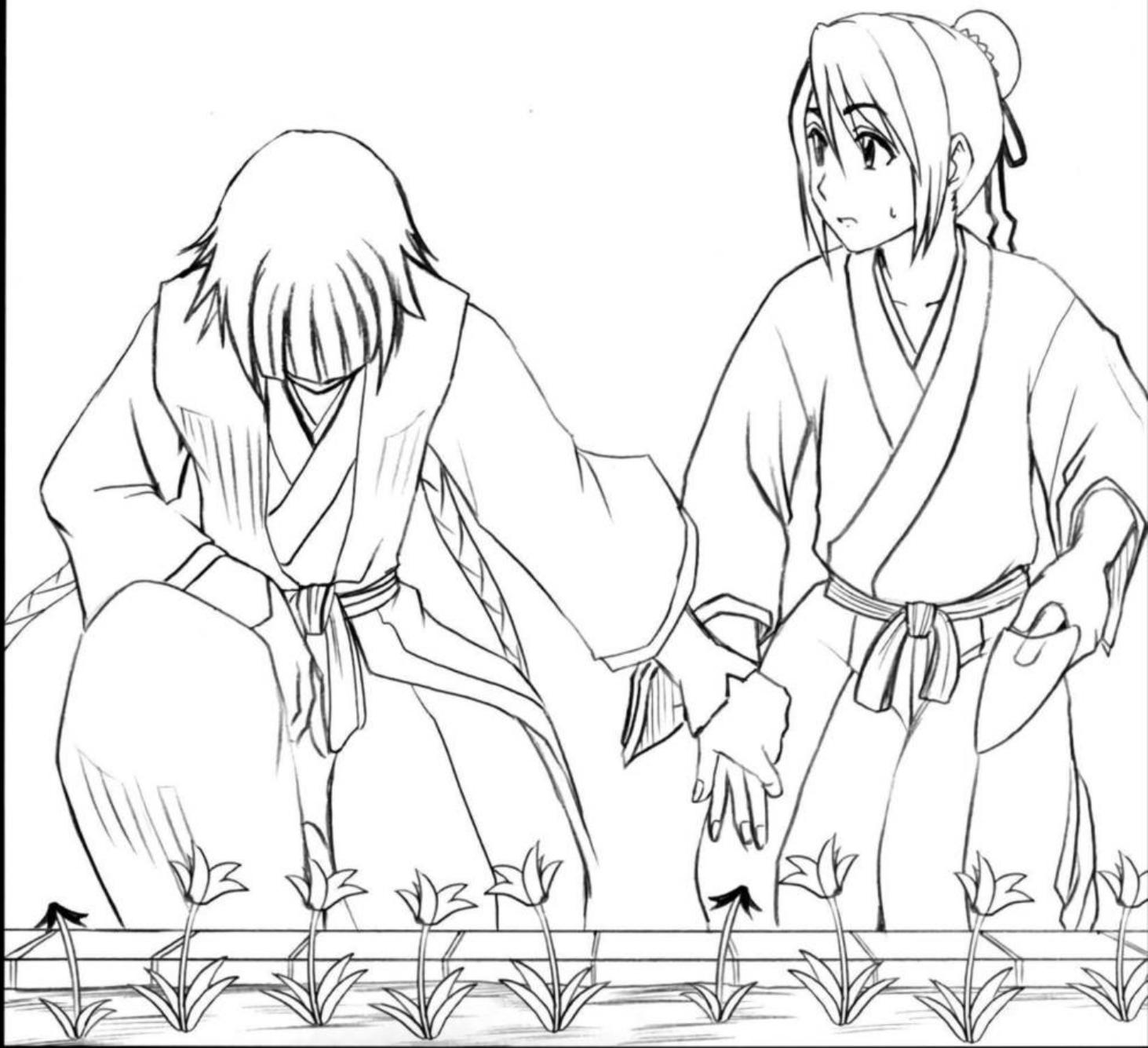
その花  
まだ咲いて  
ではないか

しかも  
これが  
あると…

紫や黄色の花が  
うまく受粉  
できなくて…

ハツ







# 相思の 恋

かつしょくの  
こいびと

episode.1  
Be separated

Anthurium  
アンスリウム

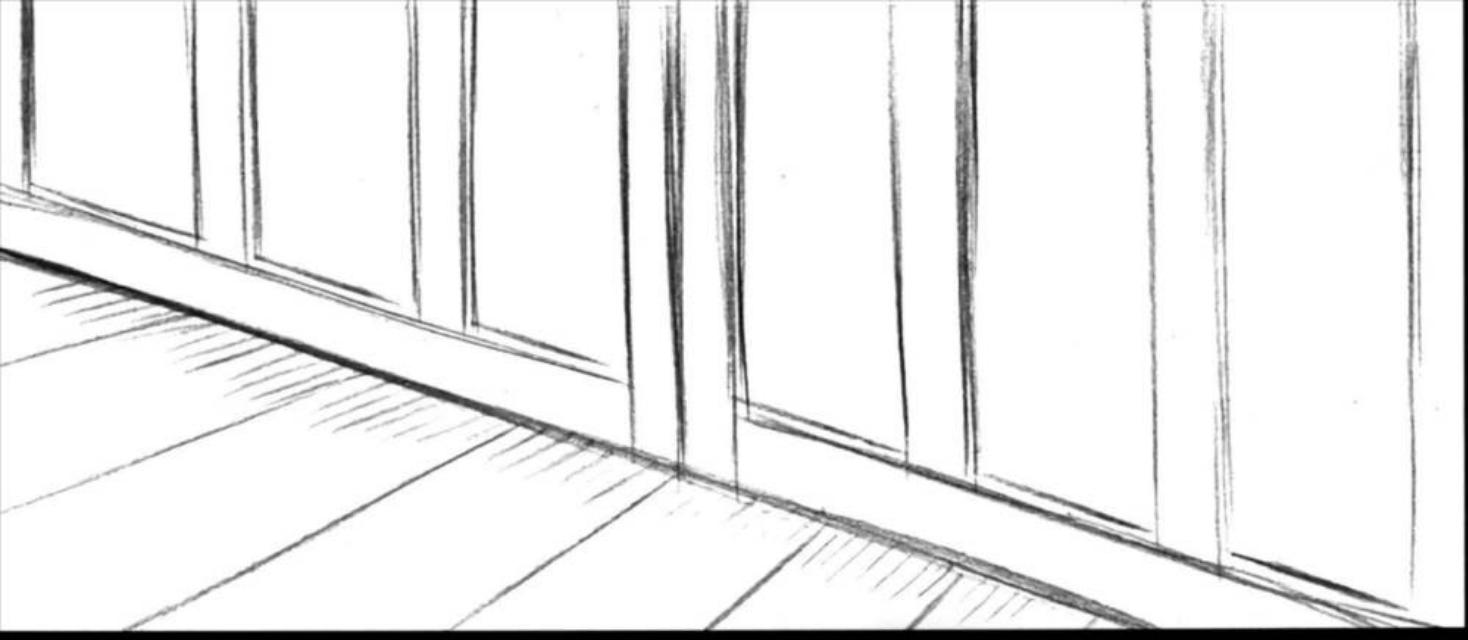
何故  
私を…

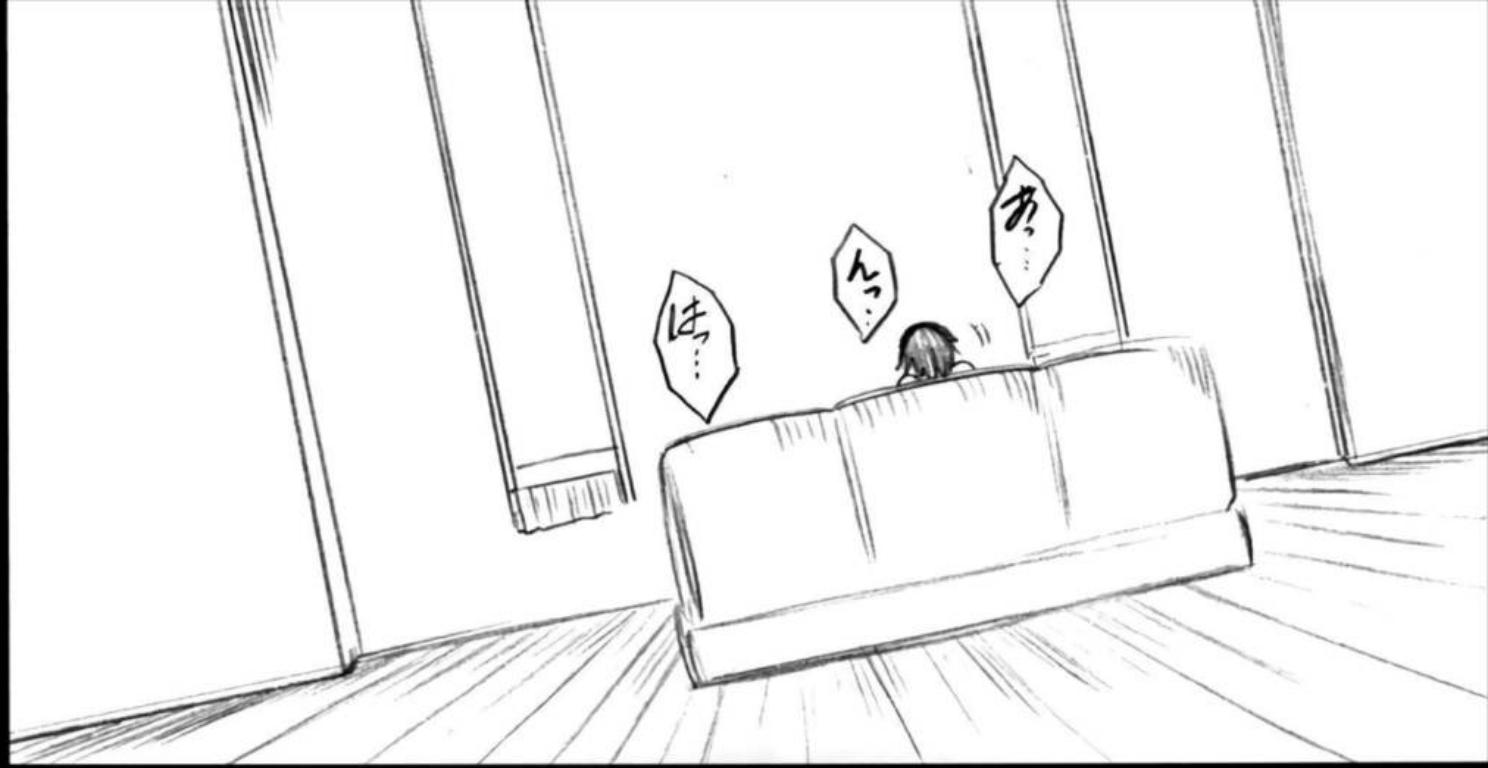
連れて行つて  
下さらなかつたの  
ですか…！

旅禍侵入  
藍染の反乱  
そして夜一と碎蜂の再会…

一連の騒動も終わり  
瀬内は  
静けさを取り戻しつつあつた









誰が勝手に  
入つていいと  
言つた！



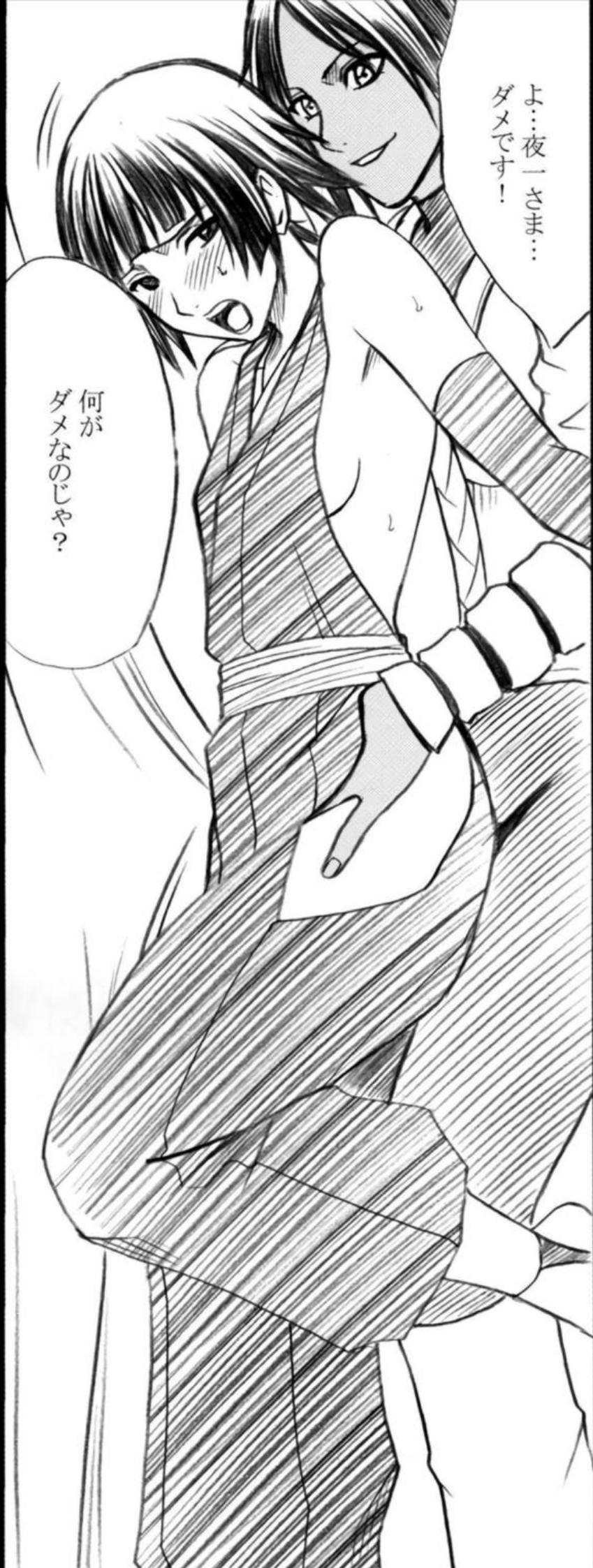
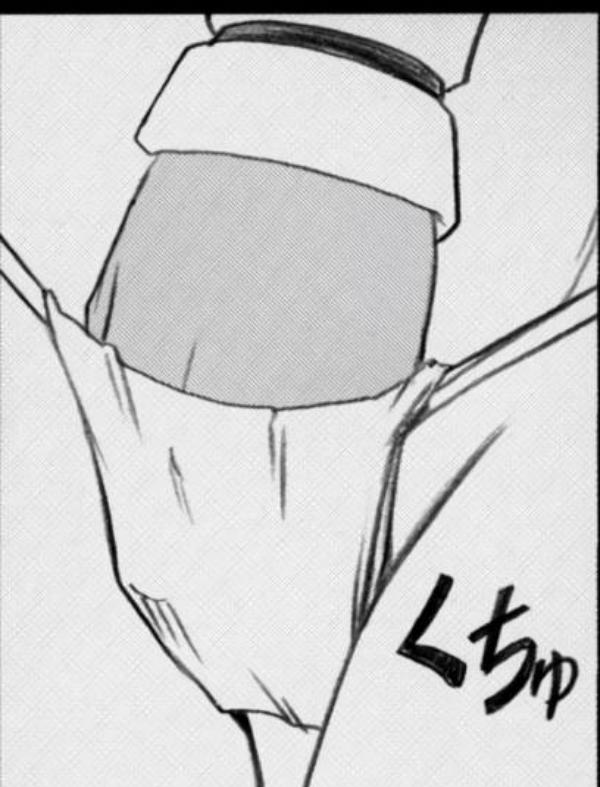






ココはまるで  
成長しておらんな  
碎蜂





ああああッ！

ただでさえ  
イきたくてしようがないのに……

今夜一  
様なんかに触られたりしたら……！  
こんな状態で

ん?  
これはどういう  
ことかの?  
碎蜂

なぜ  
こんなにHな  
液体を溢れさせて  
おるのじや?

なぜじや  
碎蜂?

そ...それは...

よ...よるいち...  
さま...

どんな罰でも  
受けると言つたのは  
お主じやぞ

ゆ...許して  
ください...  
もう...  
もう!

ぶるぶる

もつともつと  
恥ずかしい罰を  
与えてやるぞ  
碎蜂



ほれほれ  
こうが  
いいのか?

ふふふ

は!!



私のからだ!

夜一さまのすることだったら  
何だって感じてしまう…!



ま・待つてください  
夜一さまツ！



ああああああッ！



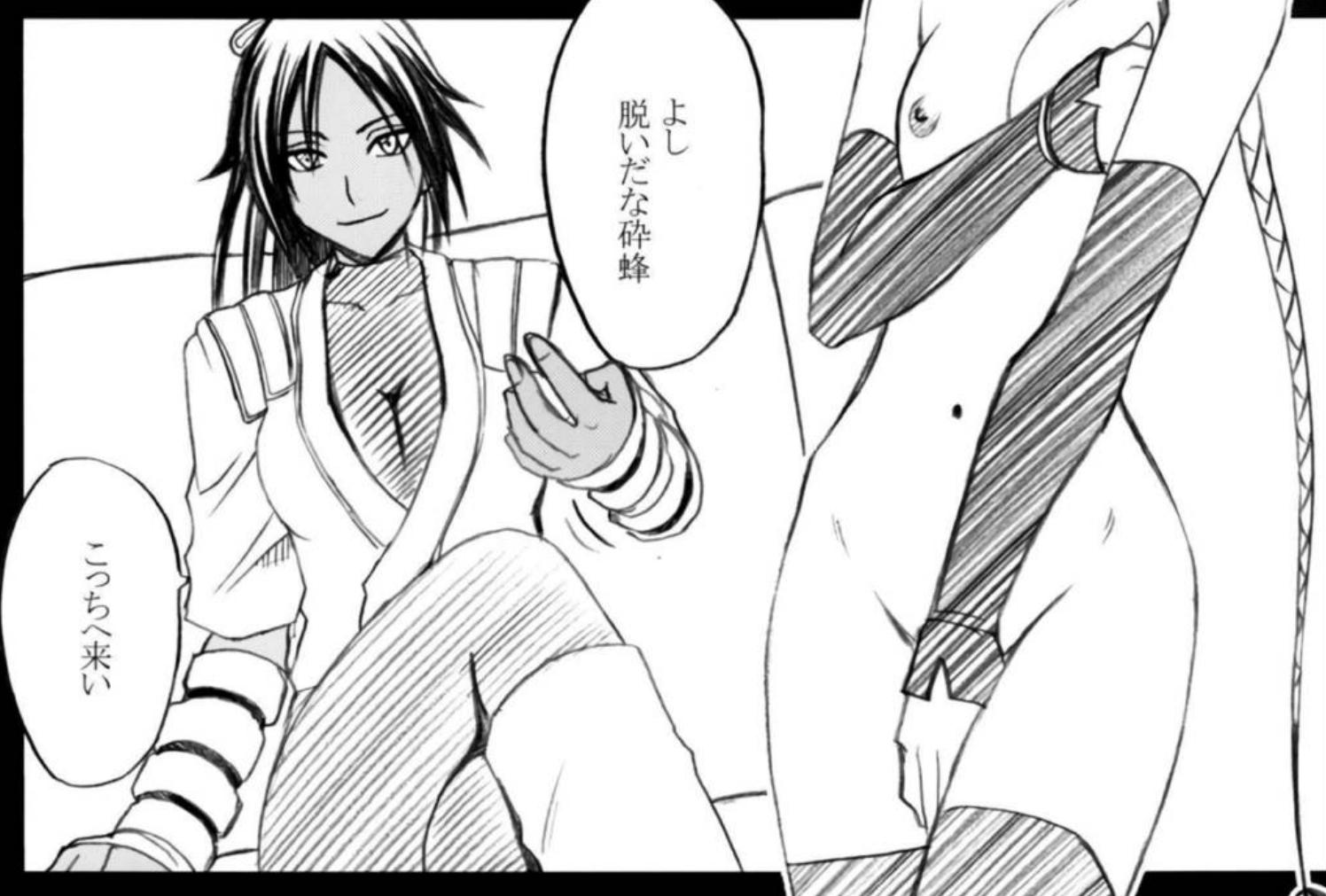


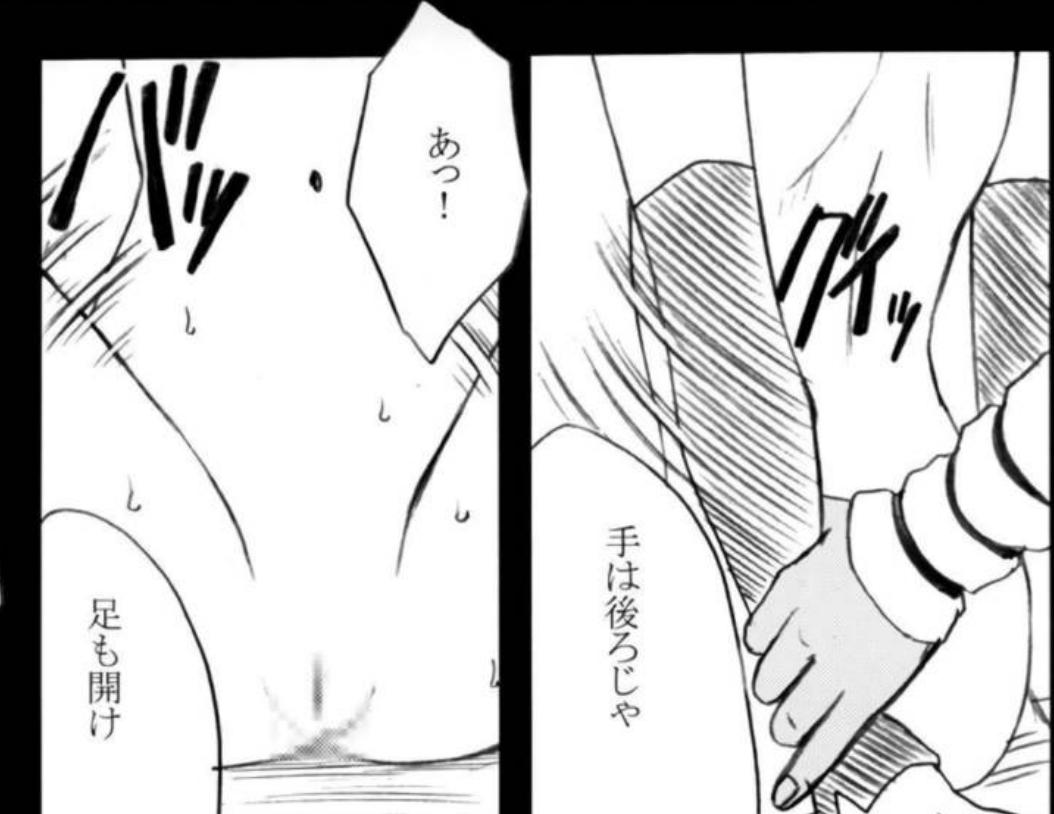
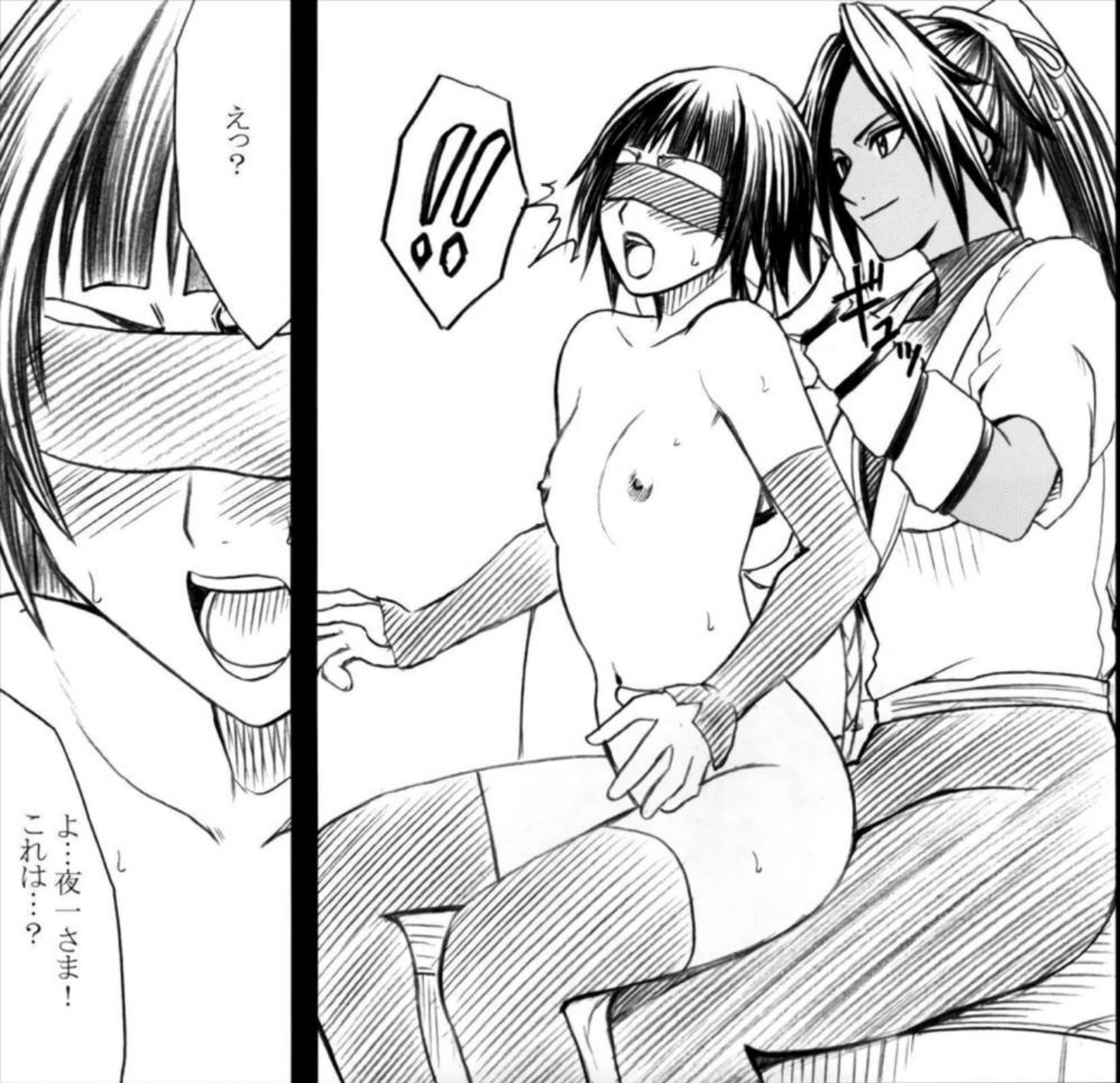
かつしょくの  
こいびと

# 褐色の 恋人

アンスリウム  
**Anthurium**

episode.2  
Protrude





んんんん  
ンンンン  
ン！





この敏感な  
クリトリスを  
苛め抜いてやろう

嬉しいか  
碎蜂？

は…はい…  
いいいいいいッ！





あああああああッ！



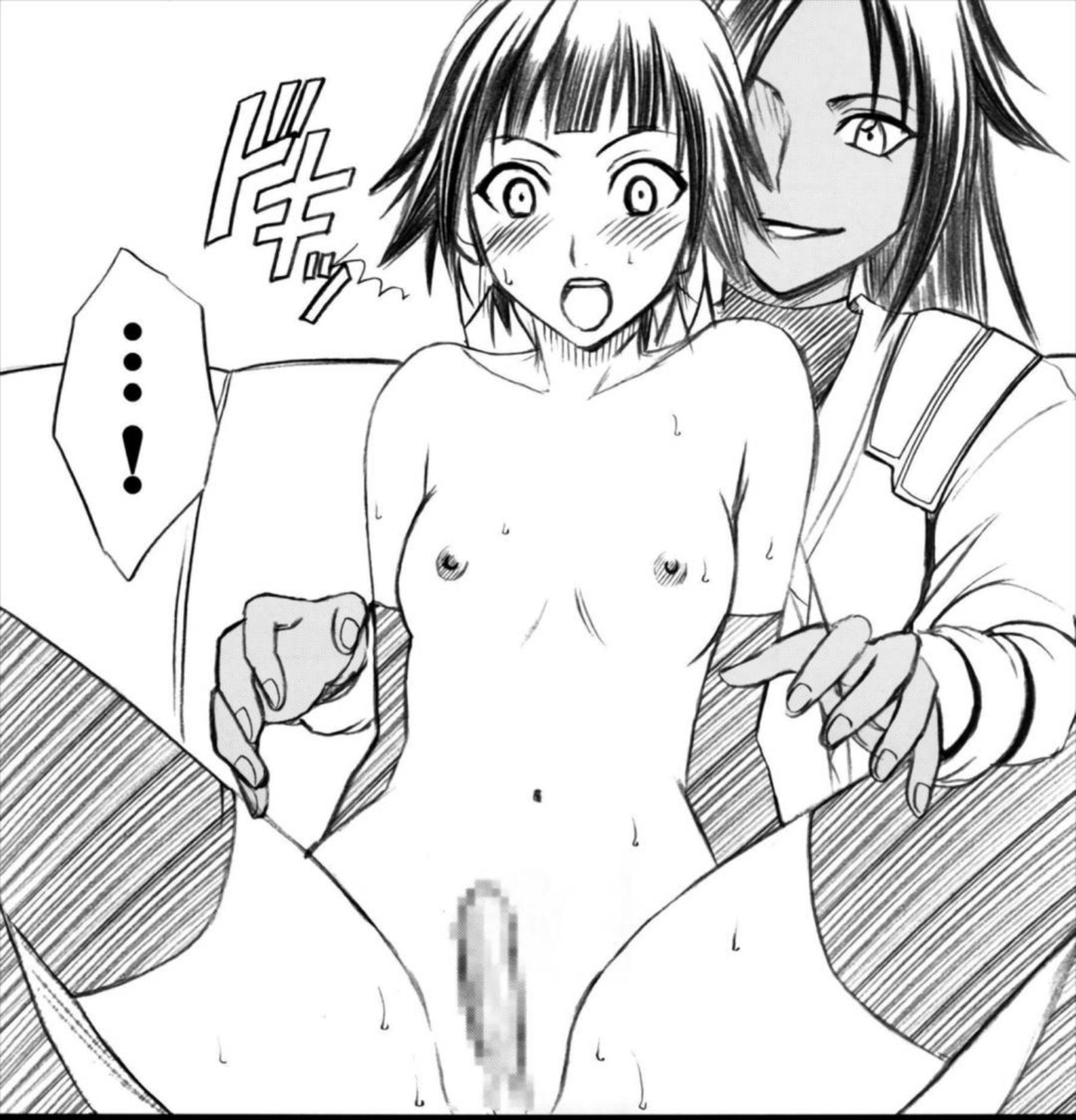
よ…夜一様！  
一体何をツ…！

いいぞ

見てみろ  
自分の体を

スレッ

…！



よ…  
夜一さま！





んんんッ！

こうかの？

ギギギ

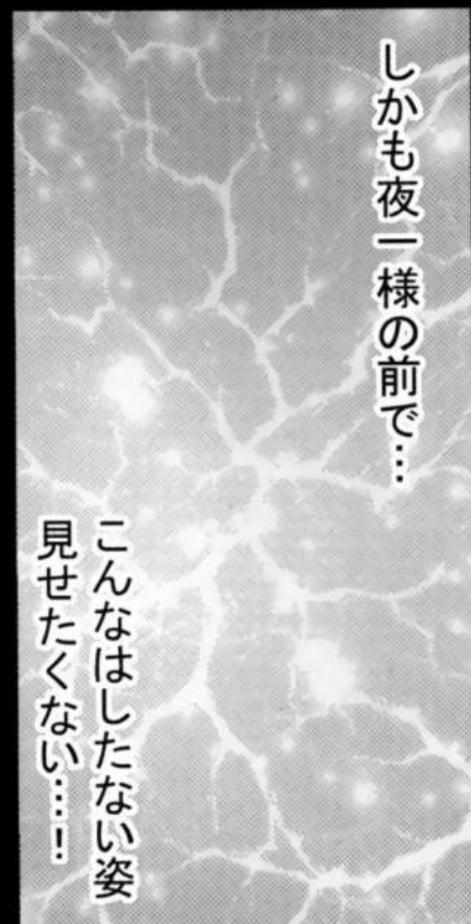
どうじや？

はじめて味わう  
快感じやろ？

あああッ！

ニキッ

ニキッ



もう…ガマンできない…！

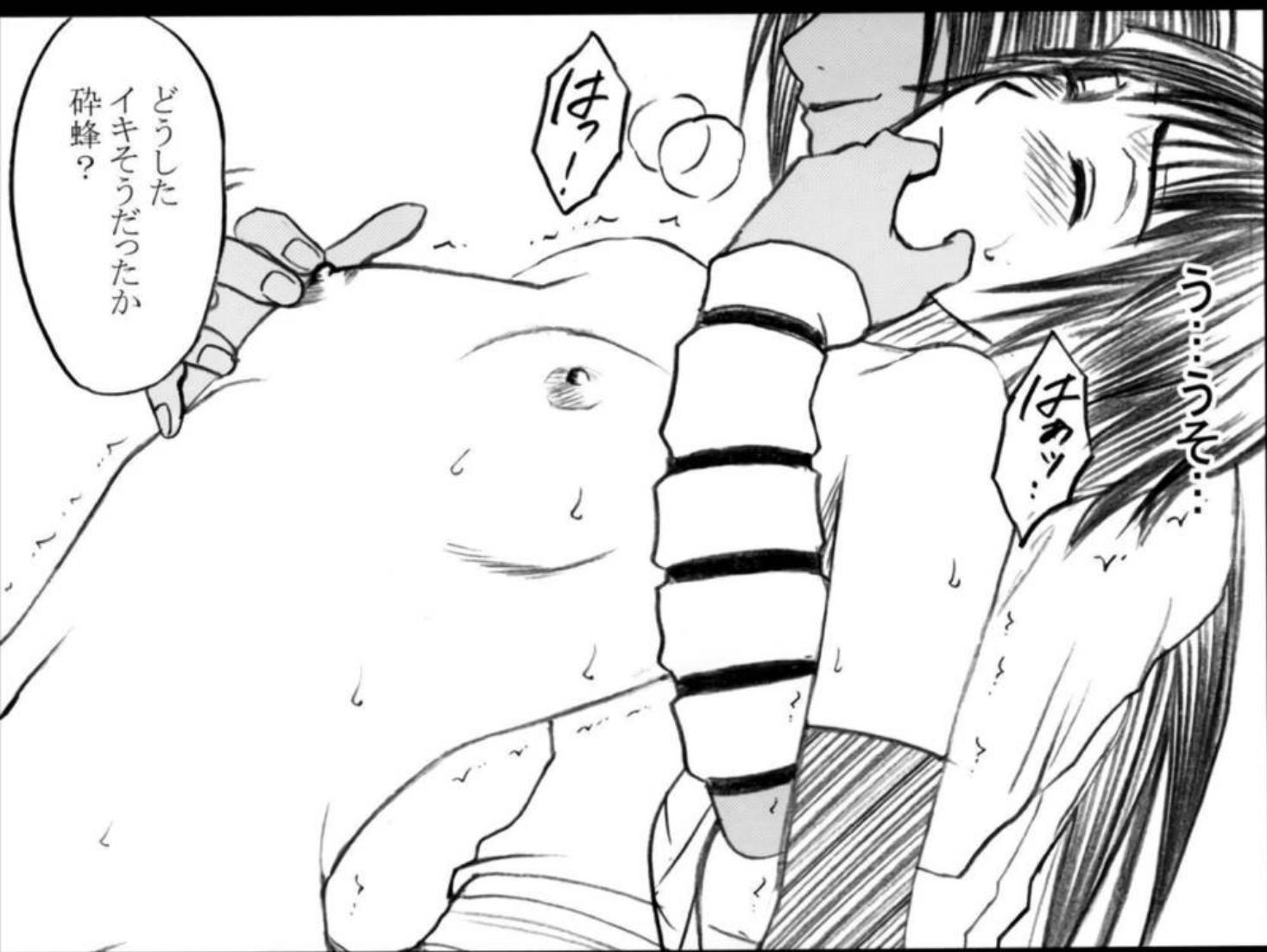
もう  
イクのか  
碎蜂？

んん？

あああッ！

また…

夜一樣の手で…

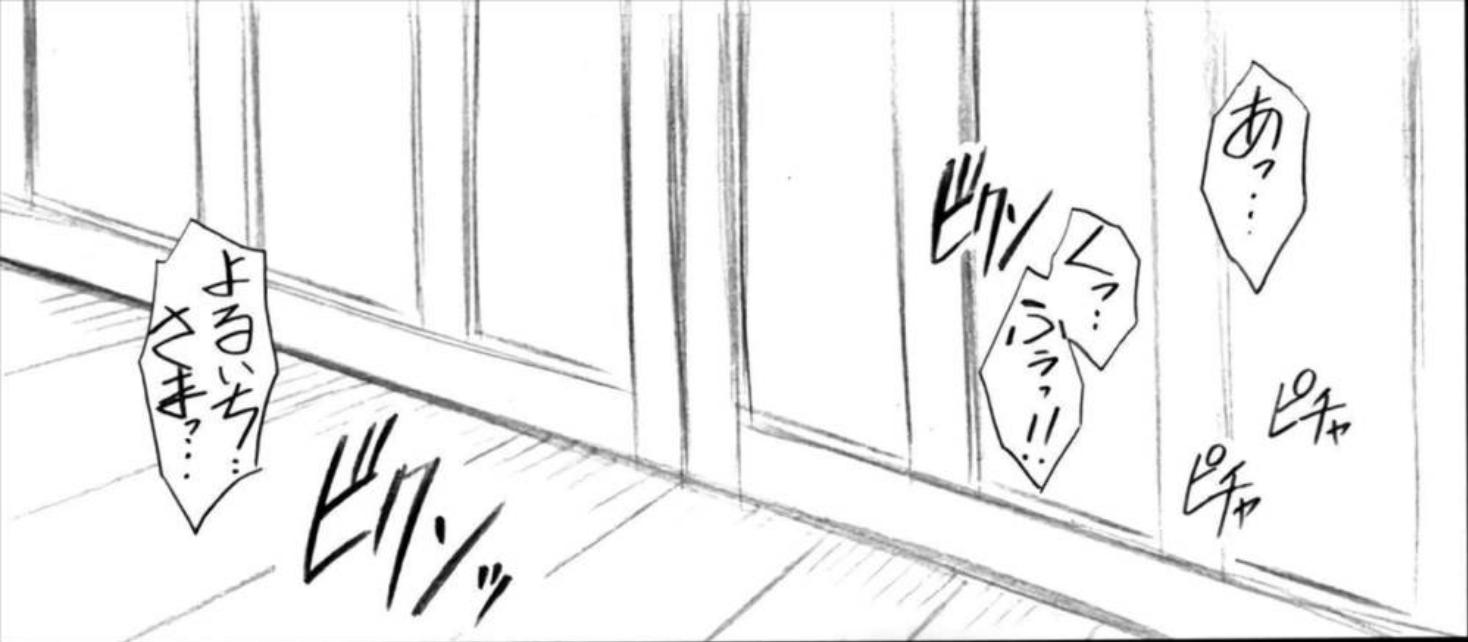


かつしょくの  
こいびと

# 相思の 恋人

アンスリウム  
**Anthurium**

episode.3  
Just Just a moment







イク？







イカせて  
欲しかつたら



今日わしが  
部屋に入つてくる前に  
何をやつていたか  
言え



あッ！

言わぬのなら  
このまま  
焦らし続ける  
だけじや

言わぬのか？

それとも…

碎蜂をこのままにして  
帰ろうかの…

…!

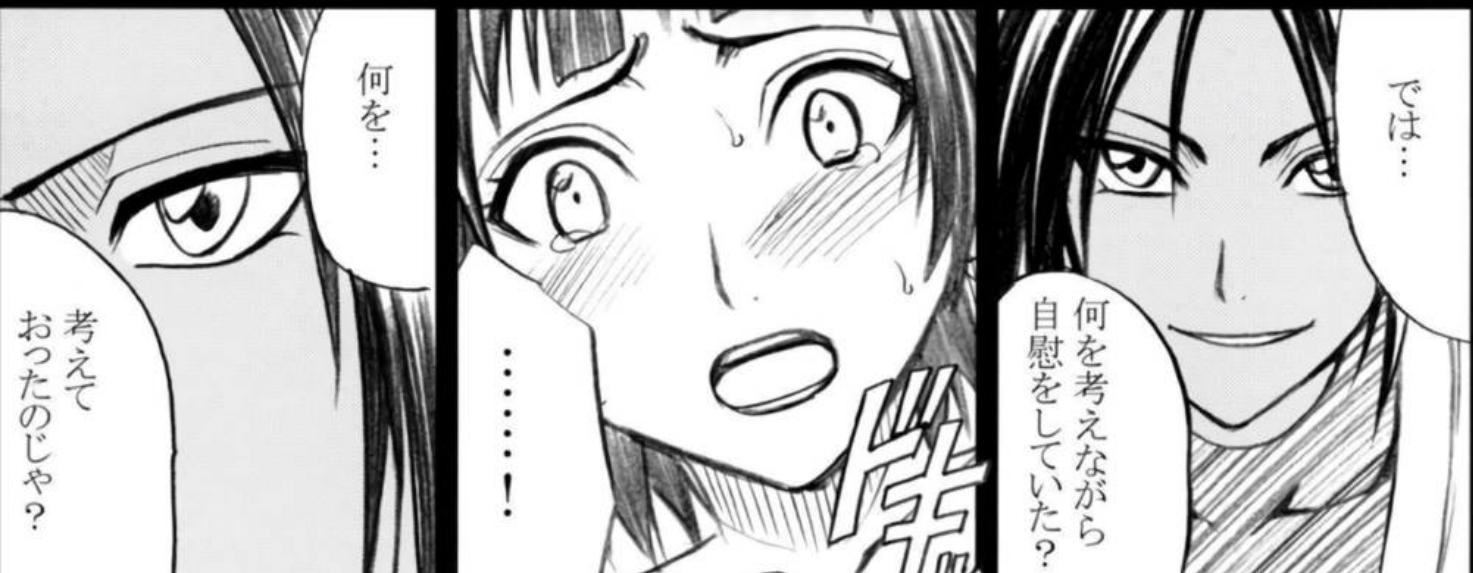
言います！

待つて…！

言いますから！

何をしておった?  
行かないで  
ください…

では…



よ…  
夜一樣のこと  
考えて…

毎晩  
自慰に耽つて  
おりました…

でも…一人では…  
寂しくて…  
一度も  
達することが  
できませんでした…

イカせて  
ほしいか…?

はは…  
はい…

クリトリスを  
しぐきながら  
ヴァキナを同時に  
責めてやろう

くちゅ

あああああッ！

これで  
一瞬で  
イカせてやる

アハハ



ああああああ

！





あああああ  
あああああツ！

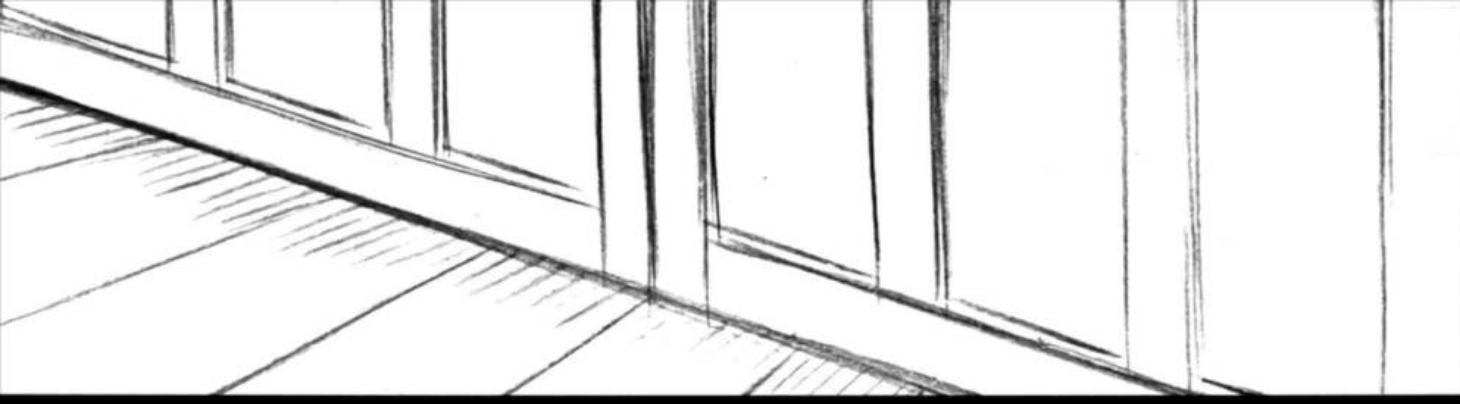


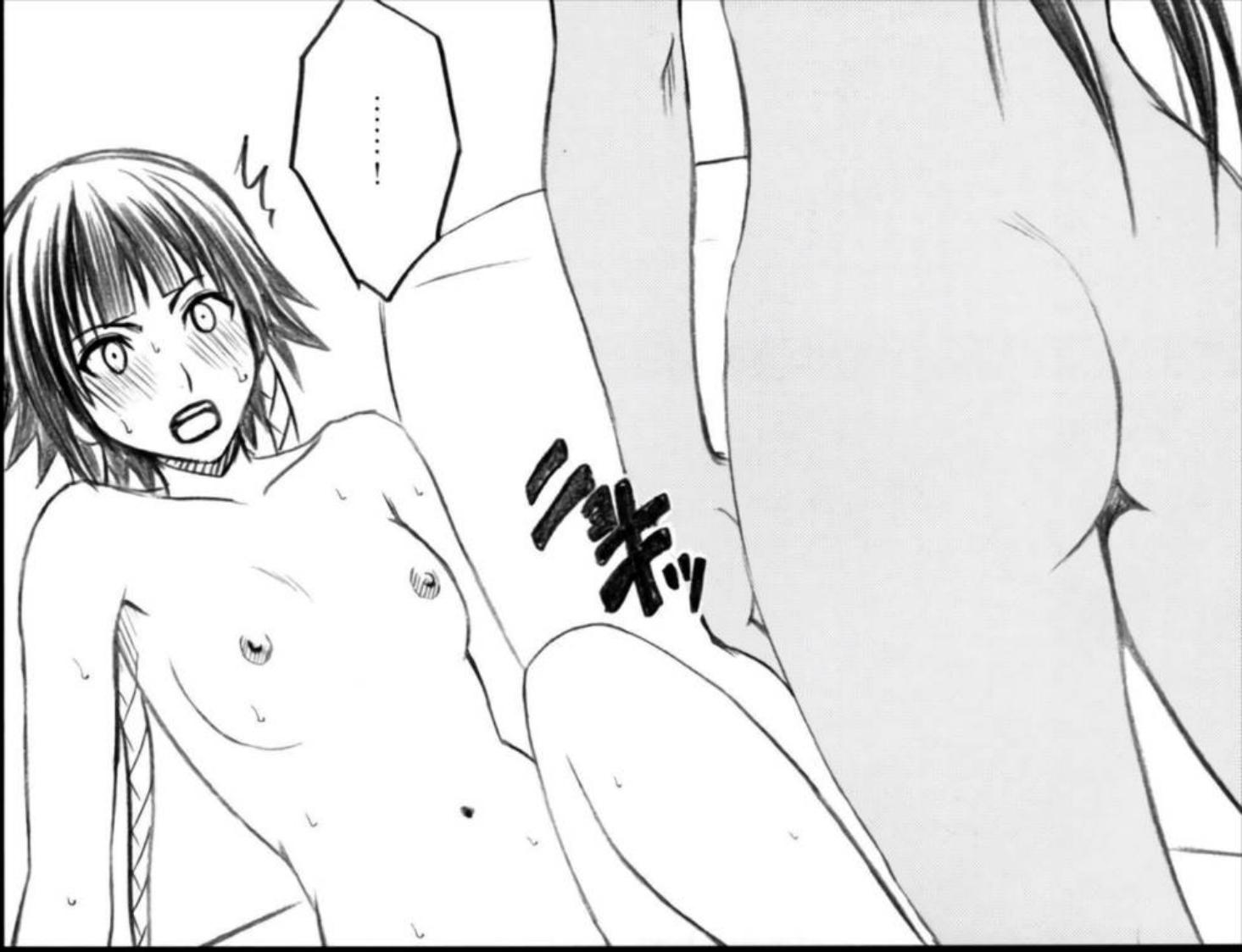
かつしょくの  
こいびと

# 褐色の 恋人

アンスリウム  
**Anthurium**

episode.4  
Say yes



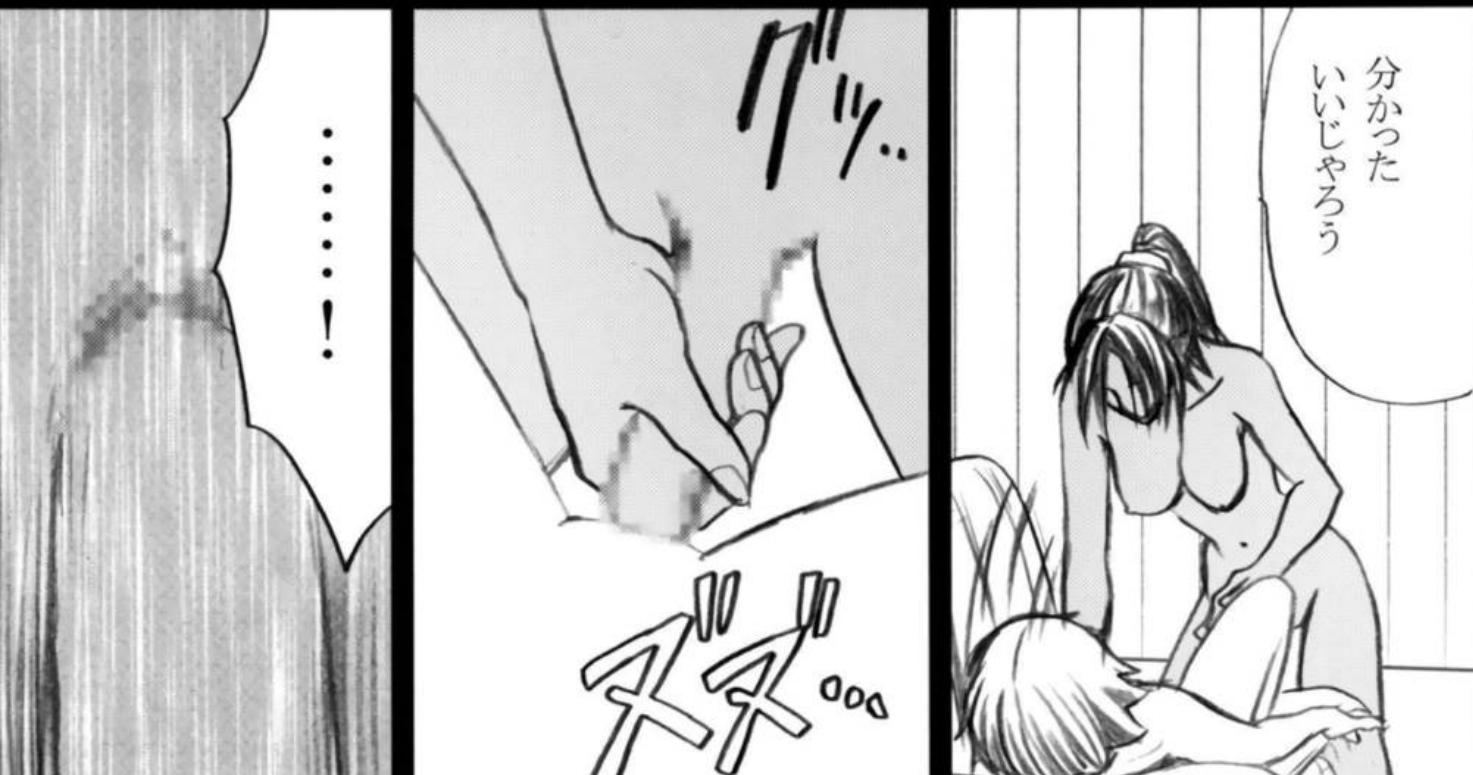
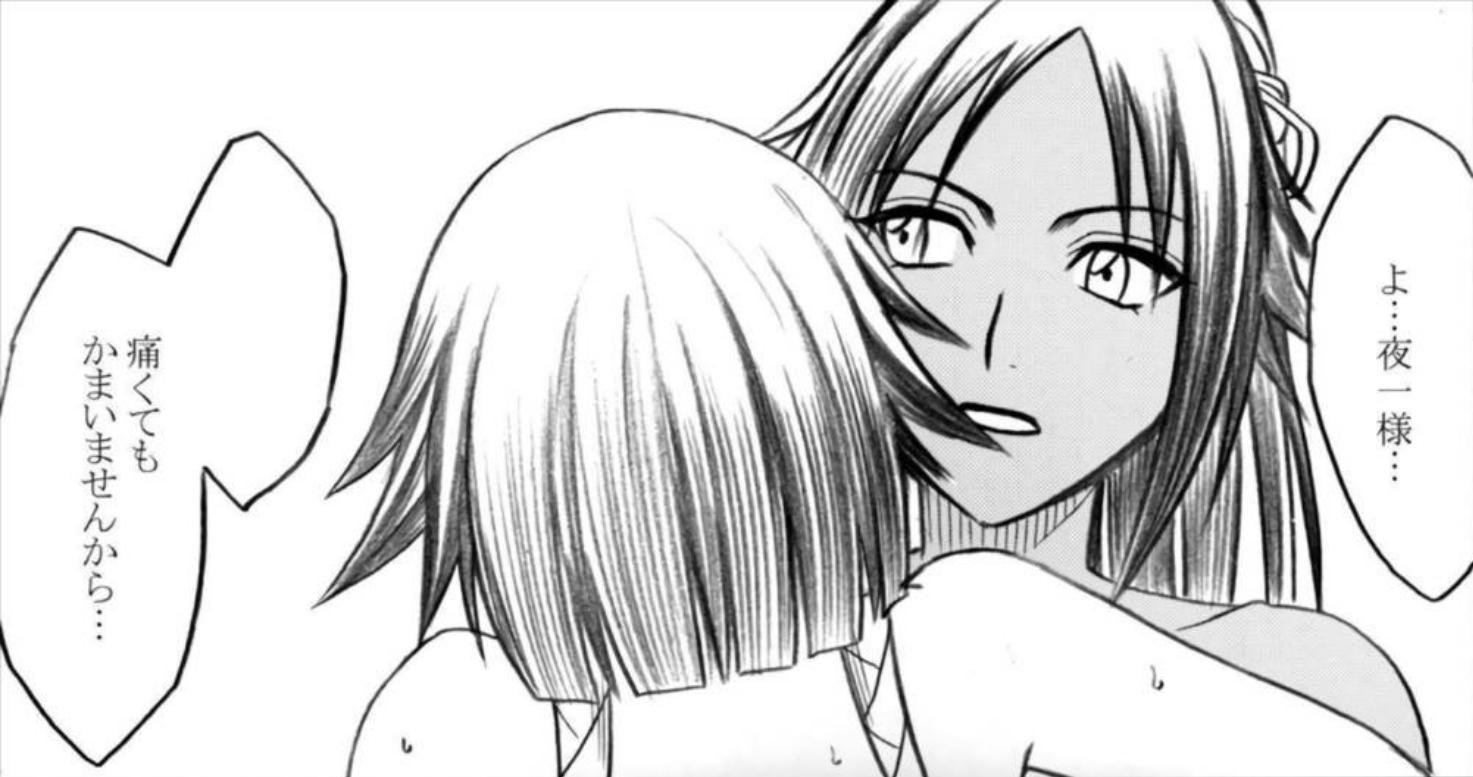




あつ！





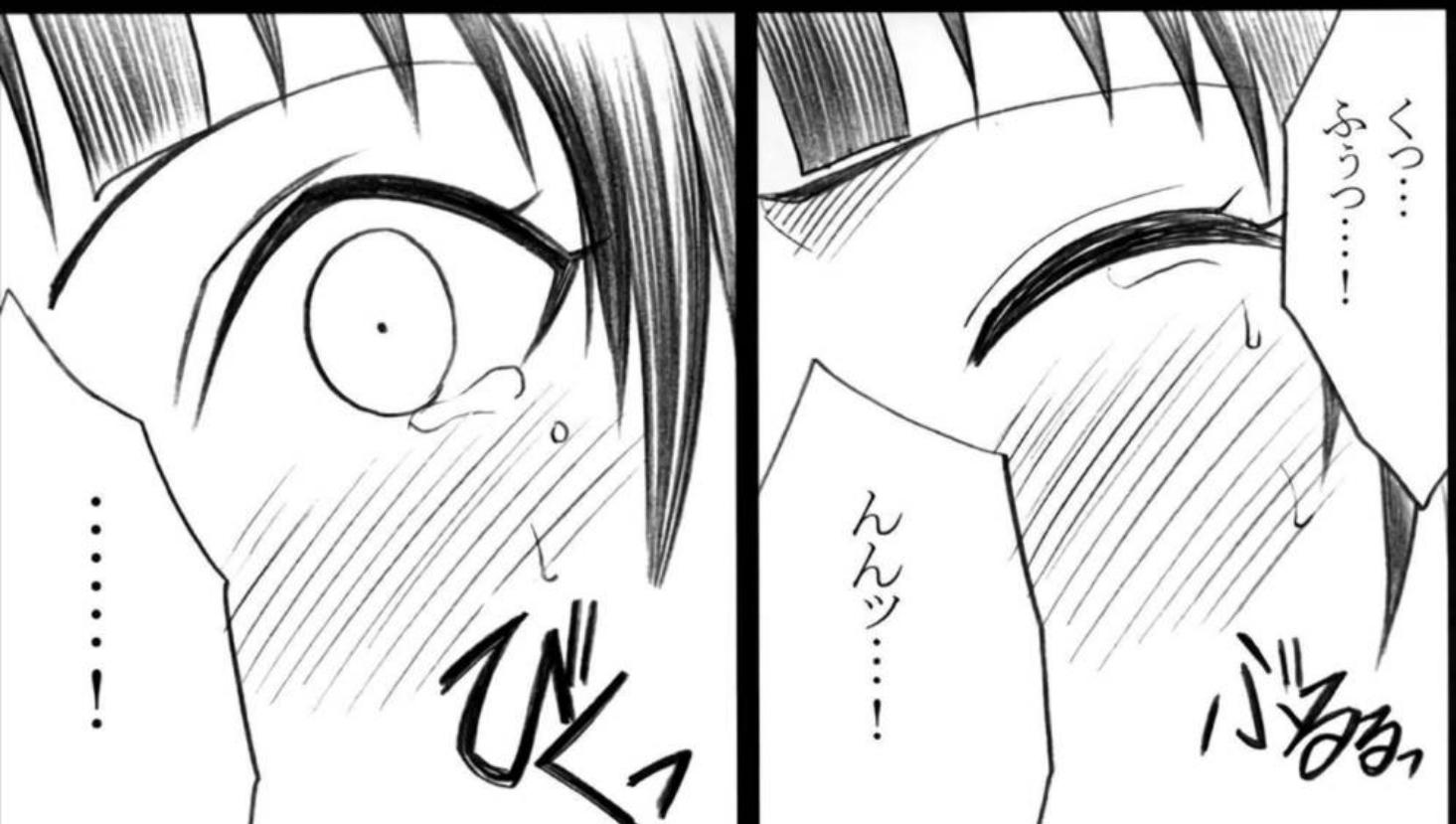


ああああああッ！





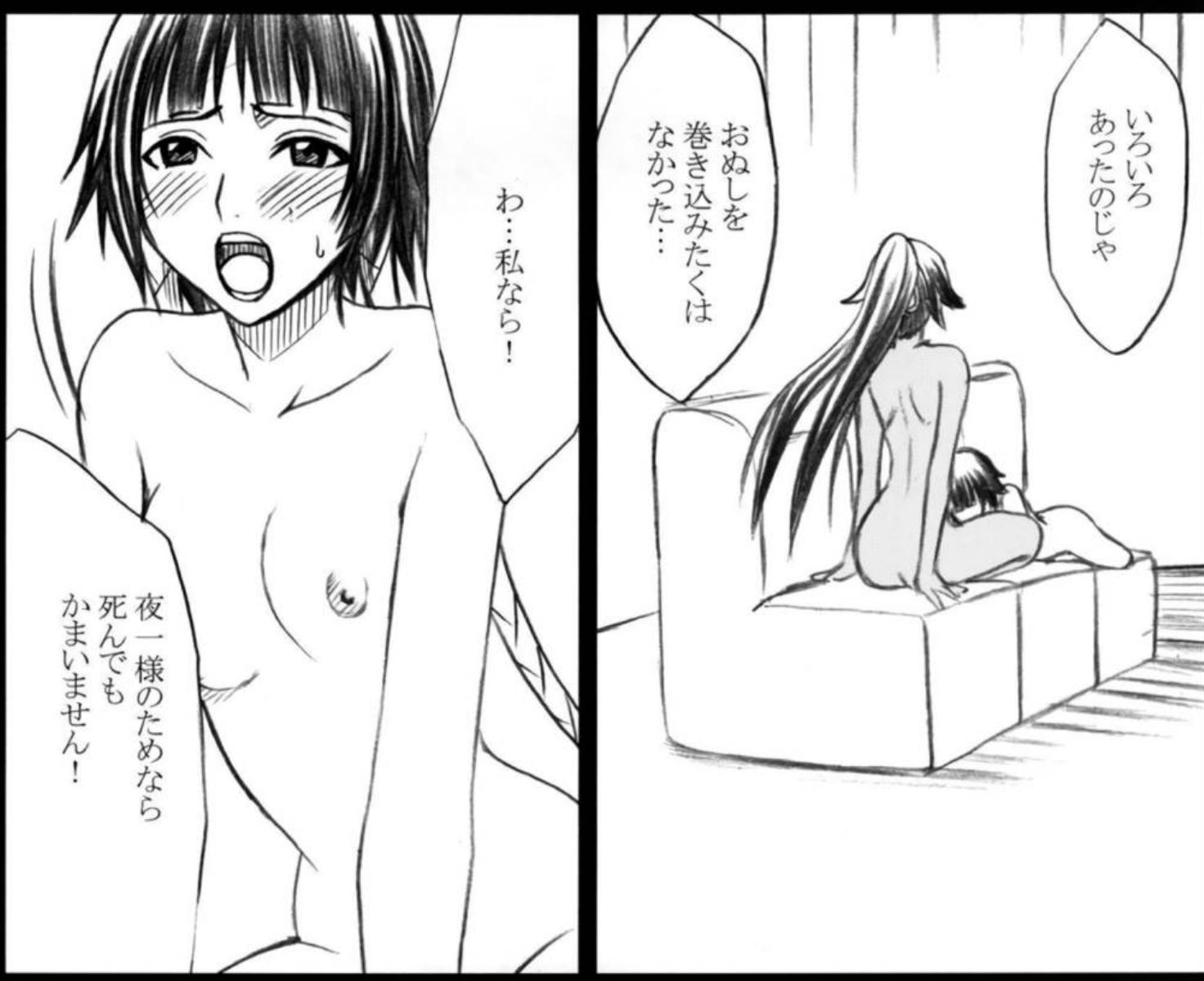






ああああッ！







碎蜂…おぬしを

刑軍軍団長および  
隠密機動総司令に  
任命する

わしの後を  
継ぐのだ

—はい：

ありがとうございます：

せめて  
この一言があれば…

百年間苦しまずに  
すんだかも知れない

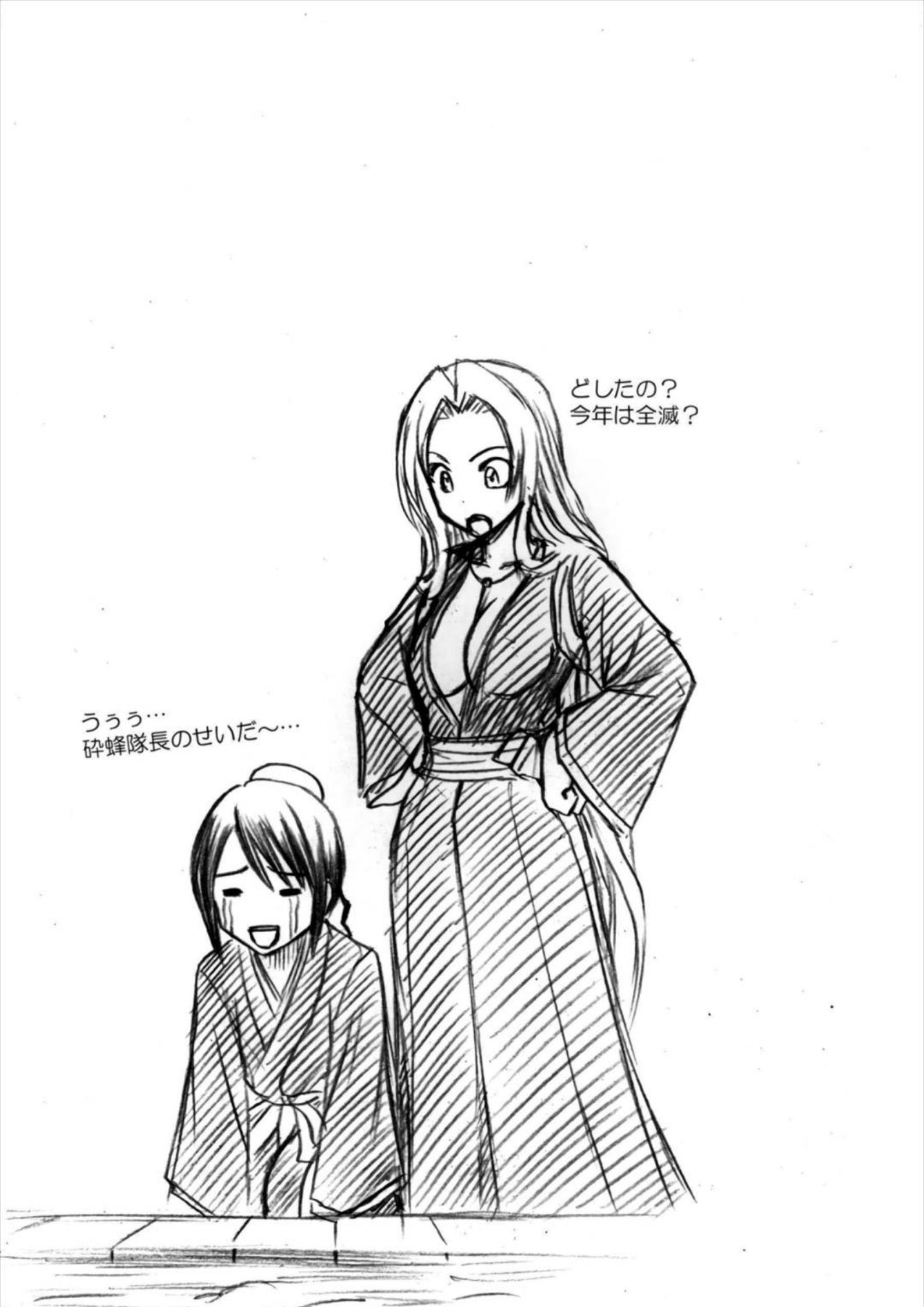
でも  
もう迷いはない

たとえこの後  
離れ離れに  
なるとしても…

これからもずっと  
夜一樣のために  
生き続けようと

何度も何度も  
強く心に誓つた





どしたの?  
今年は全滅?

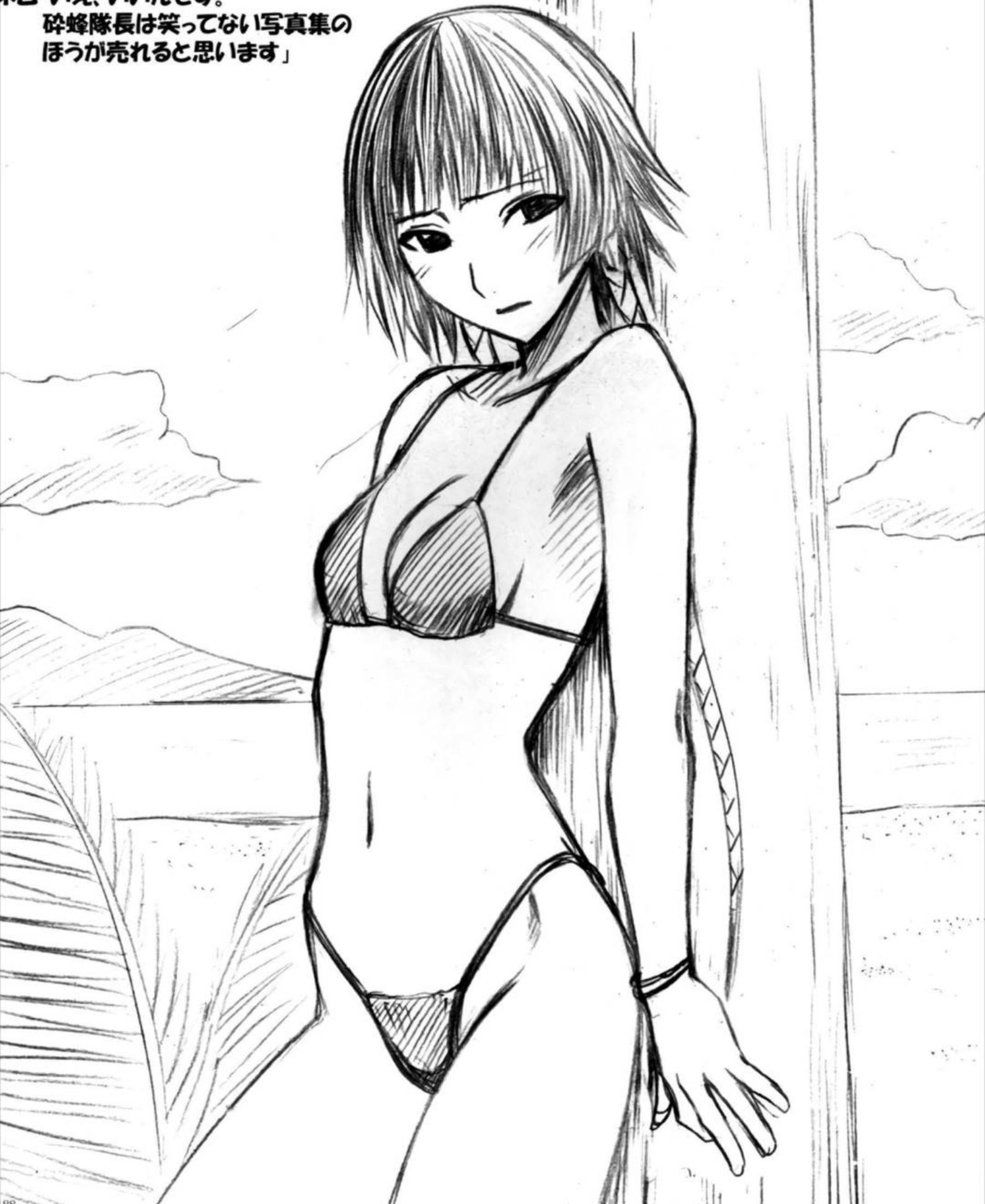
ううう…  
碎蜂隊長のせいだ～…

大事にとっておいたショートケーキを  
夜一にとられた碎蜂。



女性死神協会の資金調達のために製作されることになった写真集  
「蜂ちゃんのビーチサイドパニック」の撮影風景（詳しくはVジャンプ参照）

碎蜂「…こ…これでいいのか？」  
やちる「ほら～もっと笑って笑って！」  
ネム「いえ、いいんです。  
碎蜂隊長は笑ってない写真集の  
ほうが売れると思います」





**夜一に無理矢理服を今風の着せられる碎蜂。**

夜一「現世に来たのなら現世の服を着なければならんぞ碎蜂。

さあ これを着るのじゃ…」

碎蜂「え…あ…あの…なんですかこれは…」

# あとがき

ブリーチの総集編をついに出すことができました。

## ●サルバンの破碎日

今 見てもそれなりに見れる絵のレベルですね。

淫乱な夜一は実は愛染の完全催眠でつくられたニセモノであり…

みたいなストーリーにしようとしていましたがページの都合で最後のほうはカットされてしまいました。

乱菊のお話は普通ですね。

乱菊は全裸にするよりも むしろ服を着たままのほうがエロイような気がしました。

ちなみにサルバンの破碎日という同人誌はとても好評で  
クリムゾンコミックスグランプリを獲得しました。

## ●大輪の華

乱菊の乳間ネックレスは本当は胸の下、おへそのあたりまで続いているようですが  
この作品では胸の谷間のところまででカットしています。

なんとなく 裸の状態でそれをつけていると違和感があつたので。

前半の催眠のシーンはわりと納得いく感じで出来ました。

## ●褐色の恋人

クリムゾン同人誌では初の本格ふたりモノです。

鉛筆本も今回が初でした。

ペン入れしないほうがイキイキかけることとか  
小さなコマでも手軽に描けるのがよかったです。

碎蜂が服を脱ぐシーンでは 勝手な想像で袴の下にニーソックスを  
はかせていますが

手の布だけで足には何も無い状態だとバランスが悪くてかわいさが半減すると思ったので  
こういうふうにしました。



# 「漂白総集編」

2009年12月30日 初版発行

発行者 クリムゾン

印刷 大陽出版株式会社

<http://www.alles.or.jp/~uir>



# サルパンの破碎日 碎蜂編

敬愛する夜一を助けるために、忌み嫌う男に弄ばれることを選ぶ碎蜂。  
装束の隙間から手を入れられ、触られたくない部分を侵されても、  
じっとガマンする碎蜂だったが…。  
追い討ちを掛けるかのような過酷で淫らな罠が待ち受けていた…。

## サルパンの破碎日 亂菊編

何も知らされず、技術開発局があらたに作り出した拷問椅子の実験台になってしまった乱菊。

質感、温度、動き、そして淫毒…すべてが女を感じさせるように仕組まれている装置による一まるで逃げ場をあたえない全身責めが乱菊の心と体をわずか数分で崩して…。

## 大輪の華

孤立してしまった乱菊が遭遇したのはあの藍染だった。

完全催眠の前ではどんな抵抗も無力…

決して武器を手放さず、反抗のまなざしを向け続ける乱菊だったが無数の手で豊満な胸を弄られ…

無数の舌で濡れそぼった体中を舐めしゃぶられ…

催眠と分かっていながらも何もできず卑猥な反応を繰り返しやがて快楽の渦に呑まれていく。

そして助けに来た仲間たちも催眠をかけられ…

乱菊の極上ボディは暴走した部下たちに挟み撃ちされ…。

## 褐色の恋人

一度でも夜一に刃を向けてしまったことへの罪悪感から、夜一に詫びる碎蜂。

お仕置きと称して羞恥的な罰を与える夜一。

自慰で達する直前で止められ執拗な指攻め、目隠しされたり、

陰核を肥大化させて扱かれ寸止めされたり、卑猥な告白を強要されたり…。

性的な苛めが続いているうちに、二人の心と体は再び重なっていく…。

ああああああ